

ビュー

目次

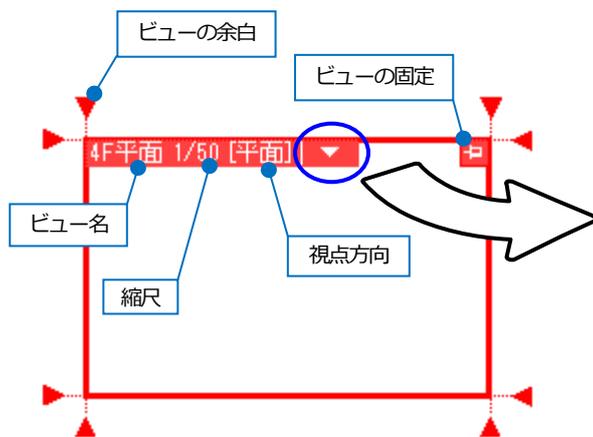
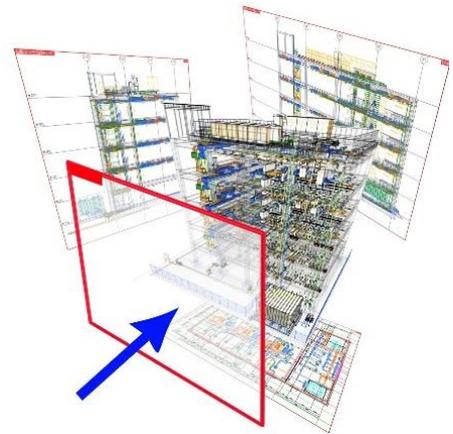
1.ビューとは	2
ビュー共通/平面ビュー共通/ビュー専用	
アラウンドビュー	
2.ビューの作成	10
ビューを作成する	
平面図から断面図を作成する	
平面詳細図を作成する	
アラウンドビューからビューを作成する	
3.ビューの編集	15
ビューのサイズ変更、移動	
ビューの削除	
ビューのコピー	
ビュー名の変更	
ビューの視点変更	
通り芯や寸法線を書き込むスペースを作る(余白)	
ビューの位置を揃える	
ビューの平面角度を調整する	
ビューの内部をくり抜く (ワイプの設定)	
4.ビューに表示する要素の制御	29
レイヤーで表示を制御する	
指定した範囲のみ表示する(クリップ)	
指定したフロアの要素のみ表示する	
2Dデータの表示を制御する	
ビューを参照する	

更新日 : 2021/4/8 Rebro2021 対応

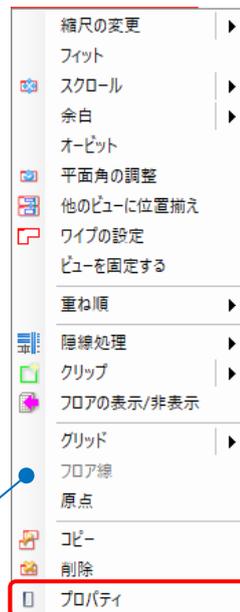
1.ビューとは

3次元のモデル空間はビューを通して表示や作図をします。ビューは、視点方向(平面、正面など)、縮尺、レイヤーの表示状態などを変えて表示できます。

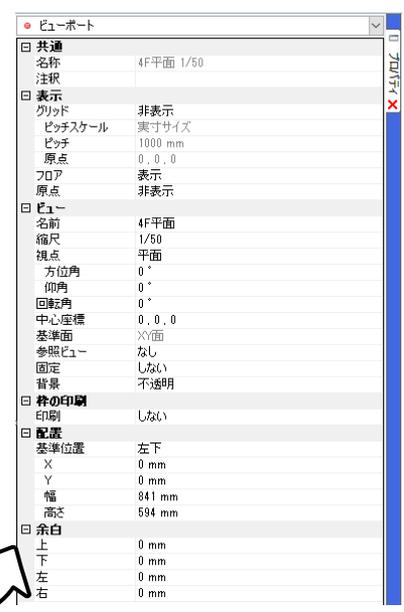
全てのビューは同一のモデル空間を表示しているため、モデル空間上の要素はどのビューからでも連動して操作することができます。



ビューのメニュー



ビューのプロパティ



ビュー名横の[▼]をクリックすると、ビューのメニューが表示されます。

ビュー名

ビューには名前があります。汎用図形や DWG、DXF、JWW などのデータを指定したビュー名でのみ表示することもできます。

縮尺

ビューごとに縮尺を設定できます。縮尺はビューのメニューより[縮尺の変更]で指定します。

視点方向

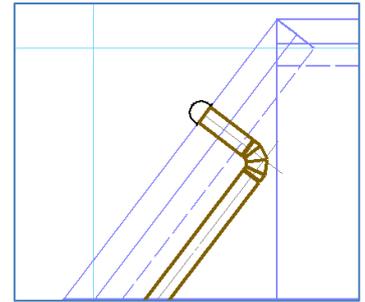
ビューの視点方向を示します。任意の方向の場合、「カスタム」と表示されます。視点方向はビューのプロパティから指定します。

ビューの余白

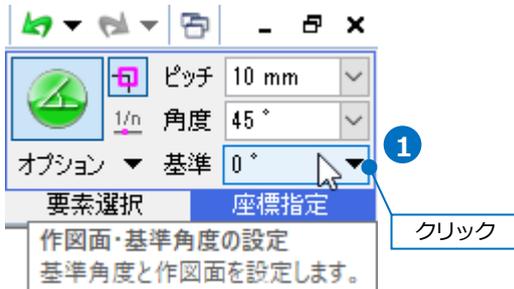
ハンドルをクリックしてビューの余白を編集します。(p.22 参照)

作図面・基準角度の設定

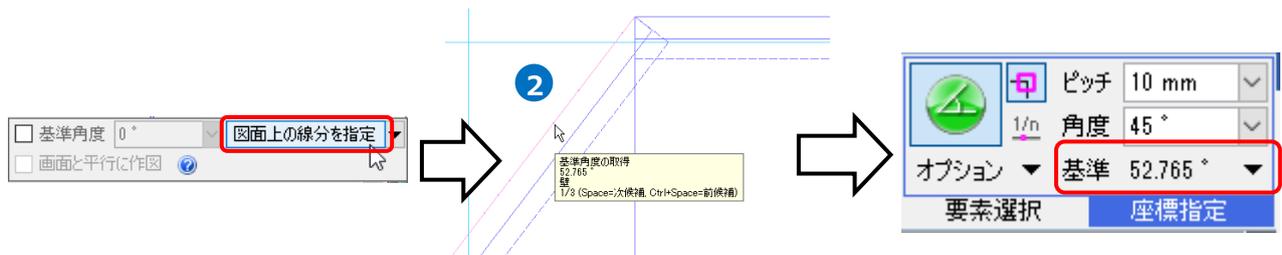
作図時の基準角度を設定します。角度のついた建築図に沿って作図する場合、指定した要素、線分から角度を取得し作図角度の補正を行います。



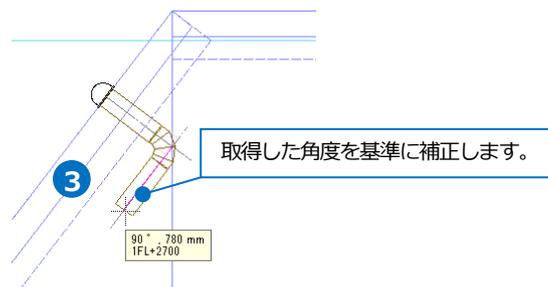
- 1 作図のコマンドを起動し、リボンの[座標指定]パネルの[作図面・基準角度の設定]をクリックします。



- 2 [図面上の線分を指定]をクリックし、図面から基準とする線分を選択します。パネルには、取得した角度が入力されます。

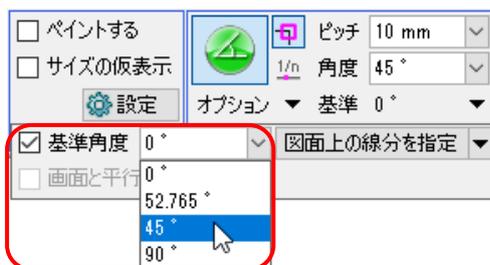


- 3 基準角度に合わせて作図することができます。

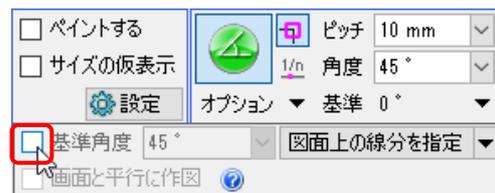


● 補足説明

[基準角度]にチェックを入れると数値入力で基準角度が設定できます。チェックを外すと元の角度に戻ります。



チェックあり

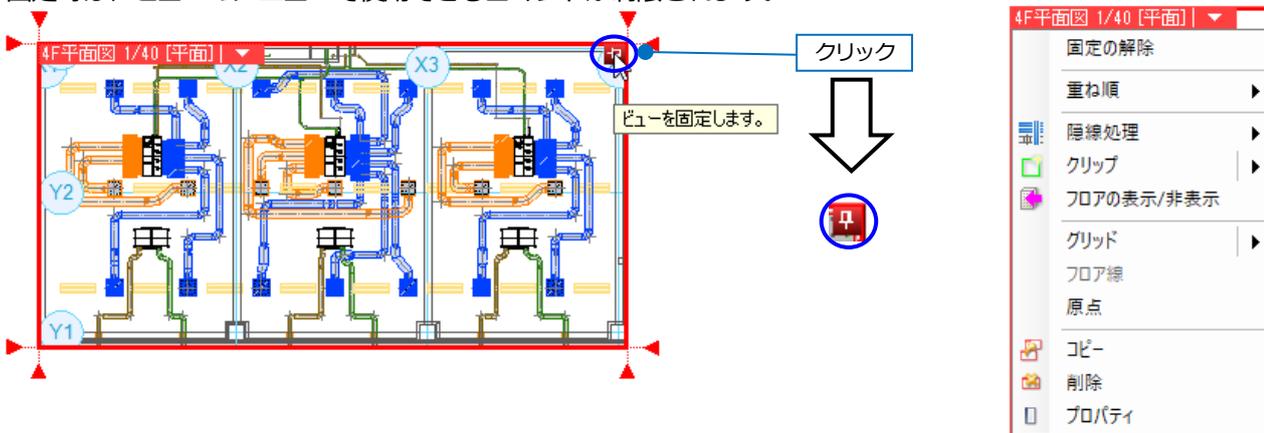


チェックなし

ビューの固定

ビューに表示されている状態で固定します。

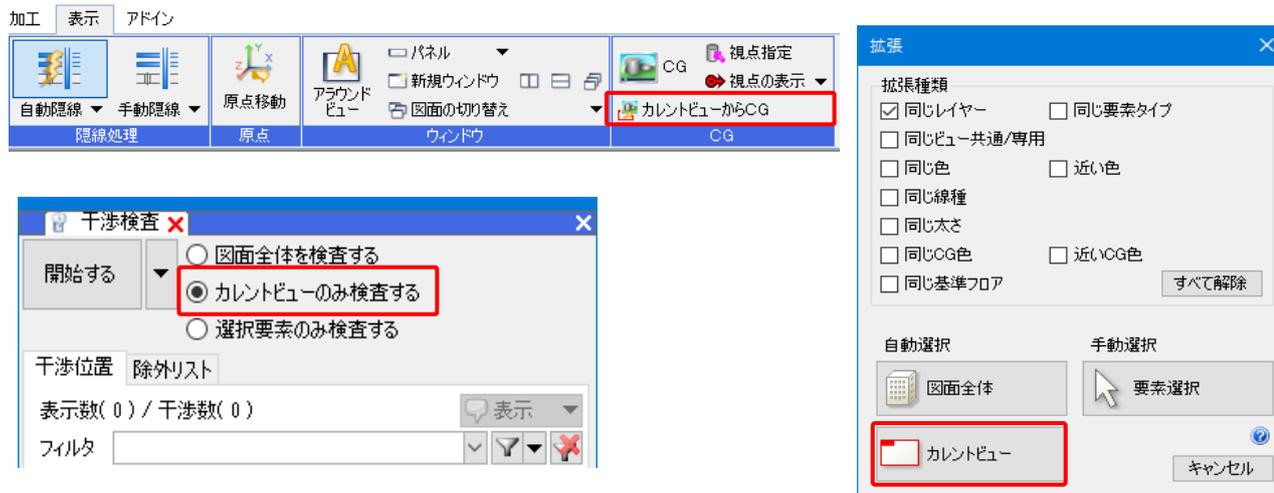
固定時は、ビューのメニューで使用できるコマンドが制限されます。



カレントビュー

作図、編集を行っている操作中のビューを「カレントビュー」と呼んでいます。カレントビューは他のビューよりもビューの枠が太く表示されます。

ビュー上で、マウスのボタン、ホイールを操作するとカレントビューが移行します。干渉検査やCG起動時にカレントビューを対象にコマンドを実行することができます。



ビュー共通/平面ビュー共通/ビュー専用

モデル要素を表示するには3つのモードから選択します。すべてのビューに表示する「ビュー共通」、視点方向が平面のビューすべてに表示する「平面ビュー共通」、指定したビューにのみ表示する「ビュー専用」です。

ビューのモードを選択できる対象は、2Dデータ、3D汎用図形、鋼材です。設備や建築は「ビュー共通」モードで表示され、変更することはできません。

作図する要素をどのビューに表示させたいかによってモードを選択します。モードの選択は、DXF/DWG、JWWファイルの読み込み時、作図コマンドの起動時に行います。作図した要素のプロパティから変更することもできます。

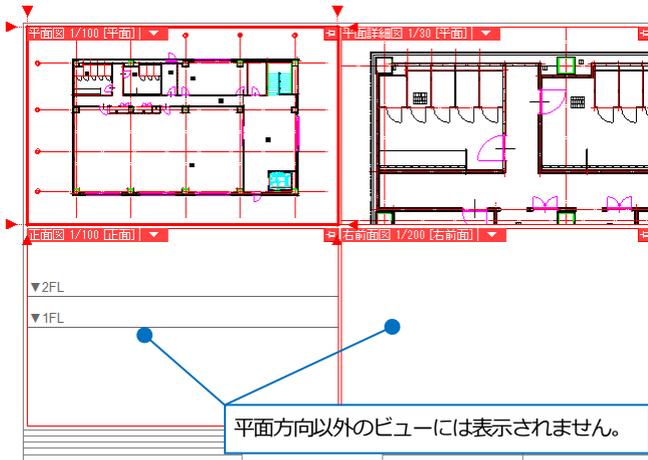
ビュー共通

すべてのビュー、CG に表示します。



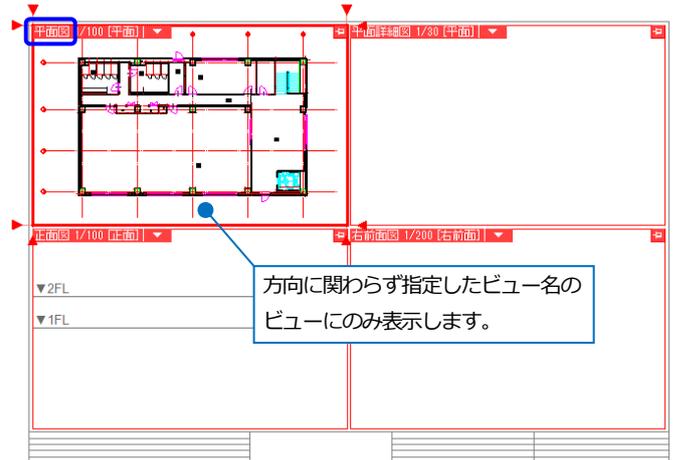
平面ビュー共通

視点方向が「平面」のビューすべてに表示します。



ビュー専用

指定した名前のビューに表示します。



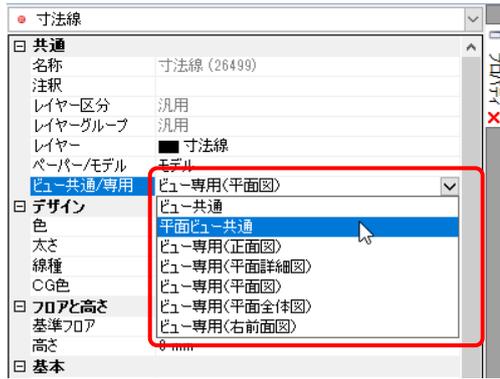
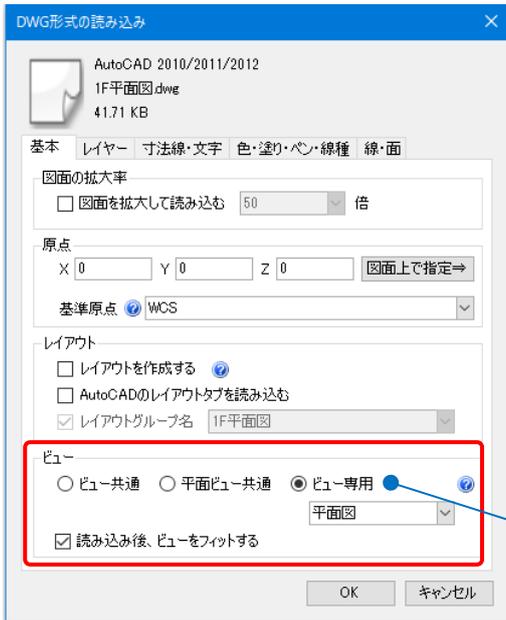
モードの選択

コマンドのリボン



DXF/DWG、JWW ファイルの読み込みダイアログ

プロパティ

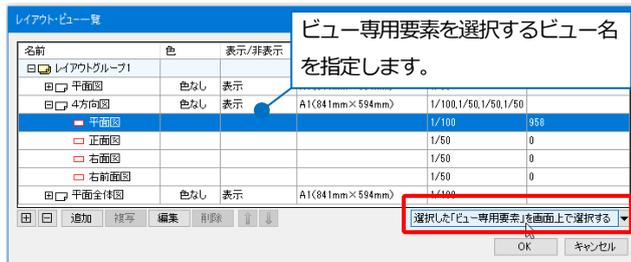


「ビュー専用」を選択した場合、読み込む要素を表示させるビューを指定することができます。

Memo



[表示]タブ-[レイアウト・ビュー一覧]ダイアログの [ビュー専用要素数]欄で、ビューごとのビュー専用要素の数を確認することができます。



ビュー名を指定し、[選択した「ビュー専用要素」を画面上で選択する]をクリックすると、要素選択されます。



ビュー名を指定し、[プロパティ]をクリックすると、指定したビューのプロパティが開きます。

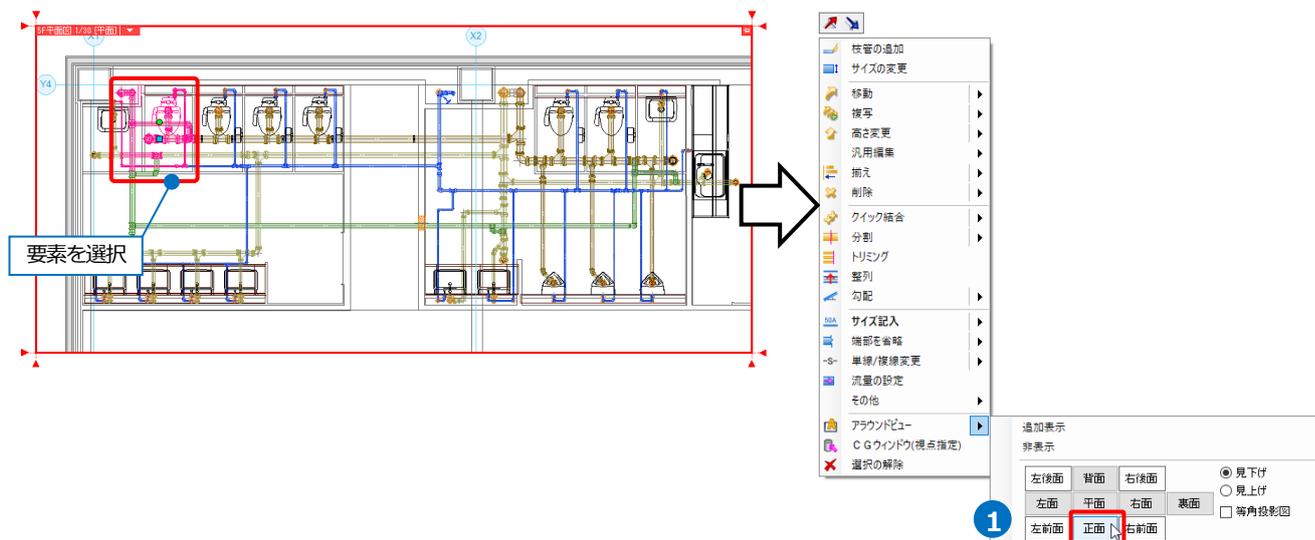


アラウンドビュー

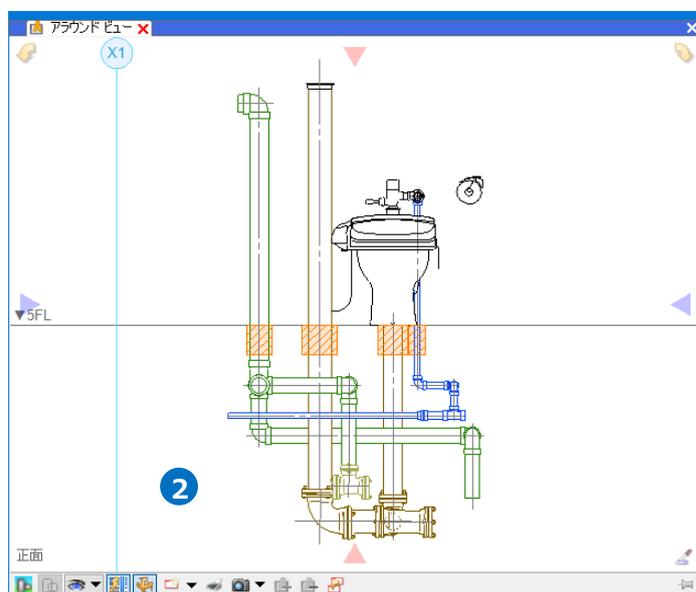
選択した要素を一時的に別の方向から見るためのポップアップウィンドウです。アラウンドビューは、ビューを図面に配置しなくても断面を確認することができます。アラウンドビューから作図、編集することもできます。

アラウンドビューの起動

- 1 アラウンドビューに表示する要素を選択し、コンテキストメニューから[アラウンドビュー]-[正面]を選択します。



- 2 アラウンドビューが起動します。



Memo
アラウンドビューは[表示]タブ-[アラウンドビュー]やクイックアクセスツールバーおよびミニツールバーの 、「F5」キーからでも起動できます。

アラウンドビューの機能

表示する方向を指定します。
[角度指定]を選択すると任意の方位角と仰角を指定できます。

左後面 背面 右後面 見下げ (選択) 見上げ 等角投影図
左面 平面 右面 裏面
左前面 正面 右前面
角度指定

平面上で回転します。

軸方向に回転します。

スポイトをクリックし図面上の線分を指定すると線から方位角を求め回転します。

ピンを立てたアラウンドビューは維持され、次に起動したアラウンドビューを別ウィンドウで開くことができます。アラウンドビューは10個まで起動できます。

	アラウンドビューのCG	アラウンドビュー内の要素をCG表示に切替えます。
	アラウンドビューの自動隠線	アラウンドビューに表示されている要素を隠線処理します。
	オービット	右ドラッグでアラウンドビューの視点方向を任意に変更できます。要素を選択している状態で操作を行うと、要素を中心に視点を旋回できます。
	アラウンドビューからビューの作成	アラウンドビューに表示された内容でビューを作成します(p.14 参照)。[▼]-[ビューの作成(汎用図形に変換)]を選択すると、アラウンドビューに表示された要素を汎用図形に変換しビューを作成します。作成したビューには、ビュー専用の汎用図形で表示されるため他のビューには影響しません。
	印刷	アラウンドビューで表示されている状態がそのまま印刷されます。
	キャプチャ	アラウンドビューの表示状態を画像ファイルまたはクリップボードに保存します。メールソフトを起動して画像を送信することもできます。
	アラウンドビューに追加表示	選択した要素を現在のアラウンドビューに追加表示します。
	アラウンドビューから非表示	選択した要素を現在のアラウンドビューから非表示にします。

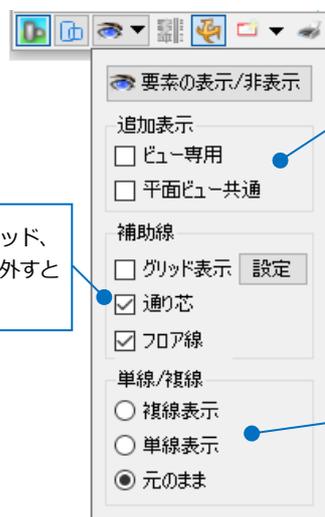
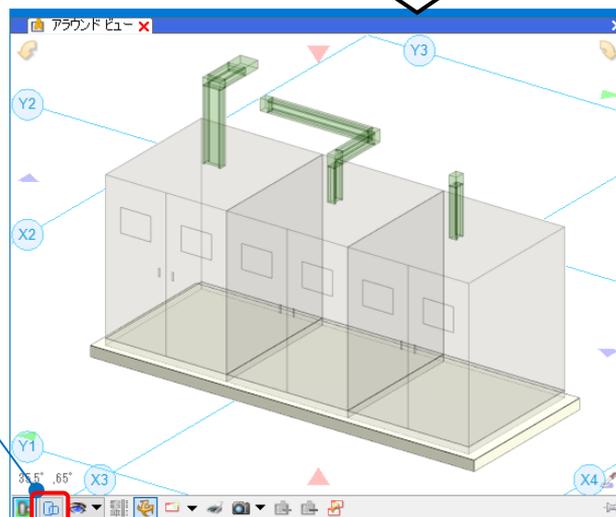
ア라운드ビューの表現

[ア라운드ビューの表現]  を設定します。

[要素の表示/非表示]で、ア라운드ビューに表示している要素の表示/非表示を要素タイプごとに切り替えることができます。ア라운드ビューのCG表示をしているときには、透明度の設定が反映します。



[ア라운드ビューのCG表示の透明度]  をクリックすると、[要素の表示/非表示]で透明度を設定した要素の[不透明][半透明][透明]を切り替えることができます。



各項目のチェックを入れるとグリッド、通り芯、フロア線の表示を行い、外すと非表示にします。

チェックを入れると、ア라운드ビュー上にビュー専用要素や平面ビュー共通要素を表示できます。

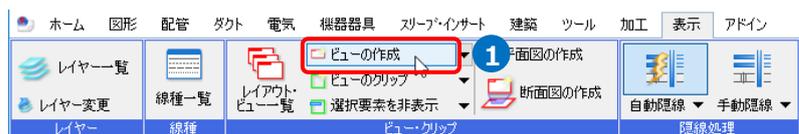
ア라운드ビューで複線・単線表示を切り替えることができます。「複線表示」「単線表示」を選択すると、すべての配管・ダクト・機器を複線または単線で表示します。「元のまま」を選択すると、ア라운드ビュー起動時のビューで設定された複線・単線の状態で表示します。

2. ビューの作成

ビューを作成する

ビューの名前、縮尺、方向を指定しビューを作成します。

- 1 [表示]タブ-[ビューの作成]をクリックします。



- 2 「新しいビューを開く」を選択します。ビューの名前、縮尺、方向を指定します。

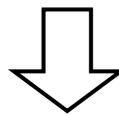
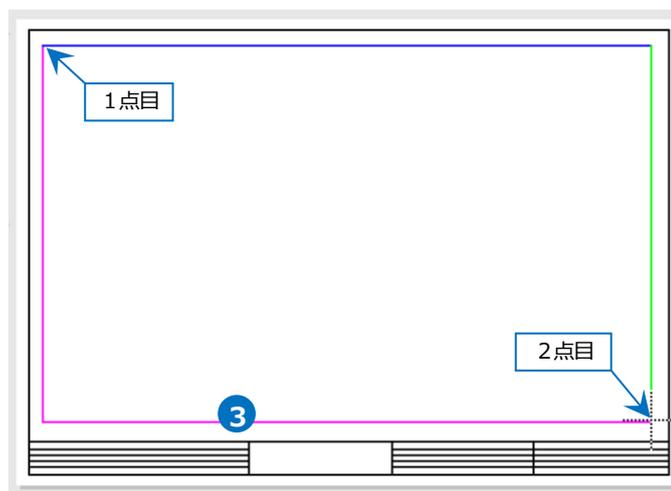


Memo

建物の向きに合わせるような任意の方向でビューを作成する場合、[方向]を「カスタム」に設定すると、方位角、仰角の入力ができます。

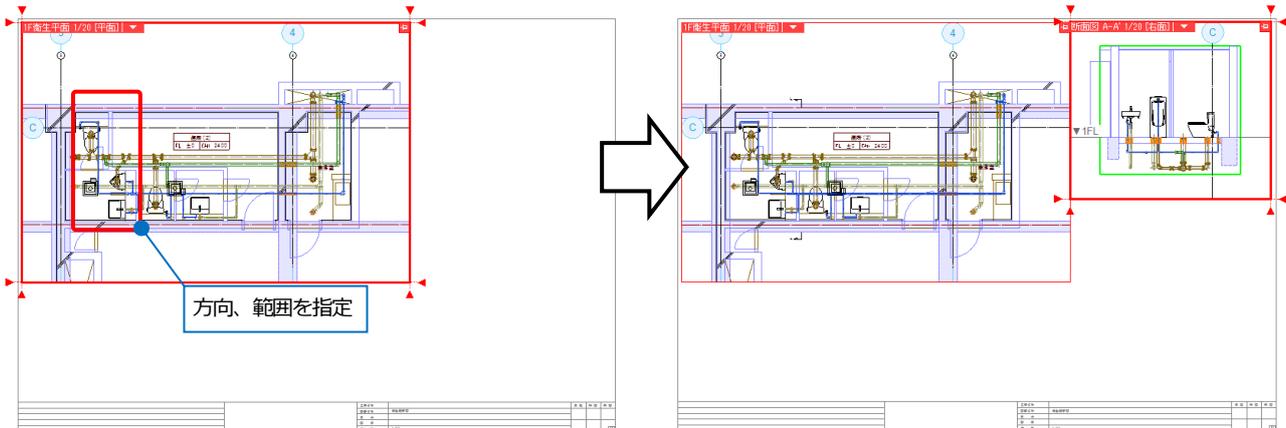
名前	カスタム(1)	方位角	0°
縮尺	1/100	仰角	0°
方向	カスタム	回転角	0°

- 3 作成するビューの範囲を対角2点でクリックします。
→ビューが作成されます。



平面図から断面図を作成する

平面ビューから指定した範囲の断面図を作成します。範囲に合わせて断面図記号を入力することができます。



- 1 [表示]タブ-[断面図の作成]をクリックします。



- 2 断面ビューの名前と縮尺を入力します。ビューの名前を「断面図 A-A」にすると、断面図の作成を行うごとに自動でアルファベットが繰り上がります。

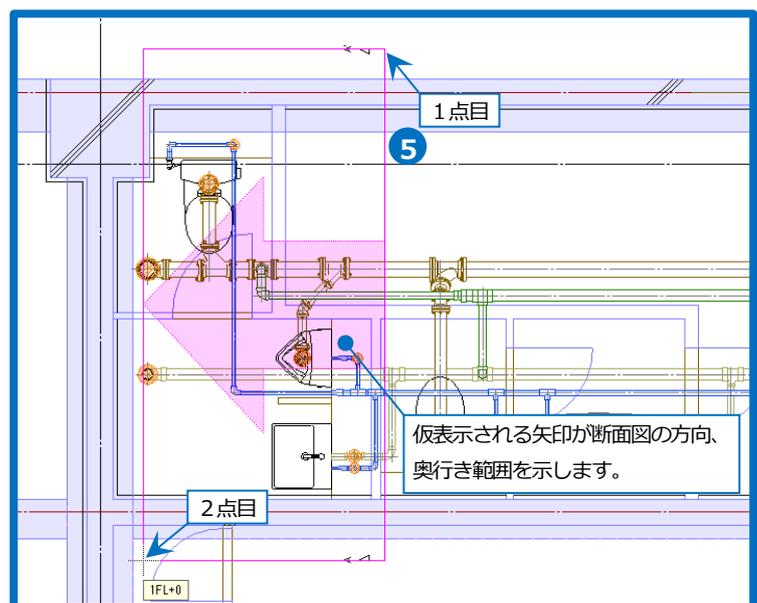


チェックを入れるとビューの角度を選択した方向に合わせます。

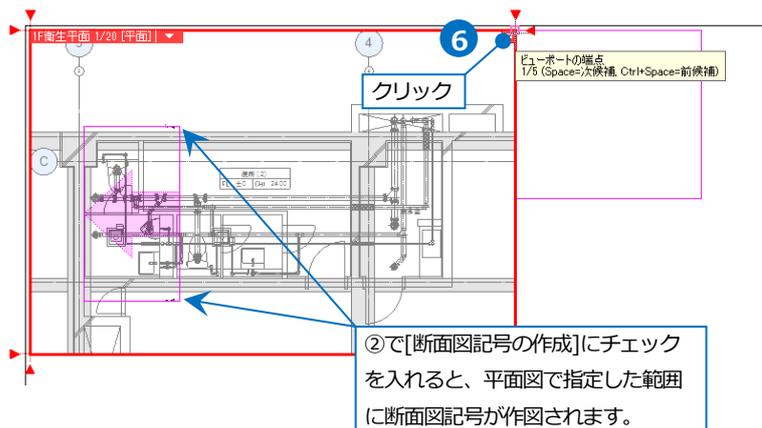
- 3 断面図のビューの方向を選択します。
- 4 断面図に表示する高さを指定します。



- 5 断面図を作成する範囲を対角2点でクリックします。
→指定した範囲の断面ビューが仮表示されます。



- 6 断面ビューを配置する位置でクリックします。

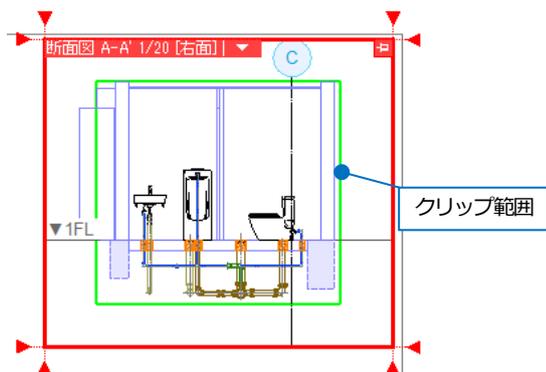


- 7 コンテキストメニューから[確定]またはEnterキーを押します。

- 補足説明

作成した断面図には緑の枠(クリップ範囲)が表示されます。これは、断面図を作成した際に指定した範囲を示しています。

この緑の枠は画面上の表示のみで印刷されません。



平面詳細図を作成する

平面図から縮尺、範囲を指定し、部分詳細図のビューを作成します。

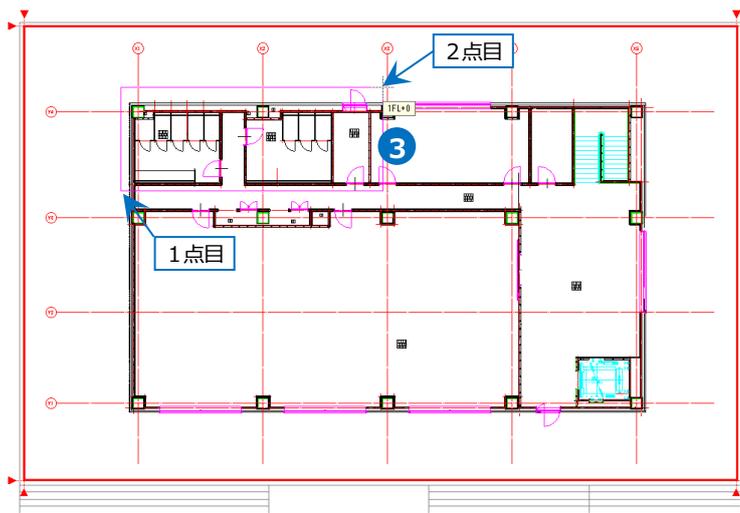
- 1 [表示]タブ-[平面図の作成]をクリックします。



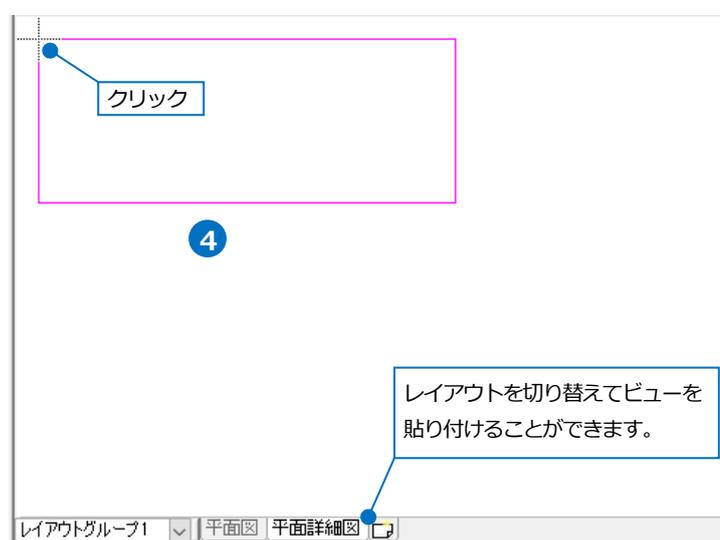
- 2 「新しいビューを開く」を選択します。ビューの名前を入力し、詳細図の縮尺を指定します。



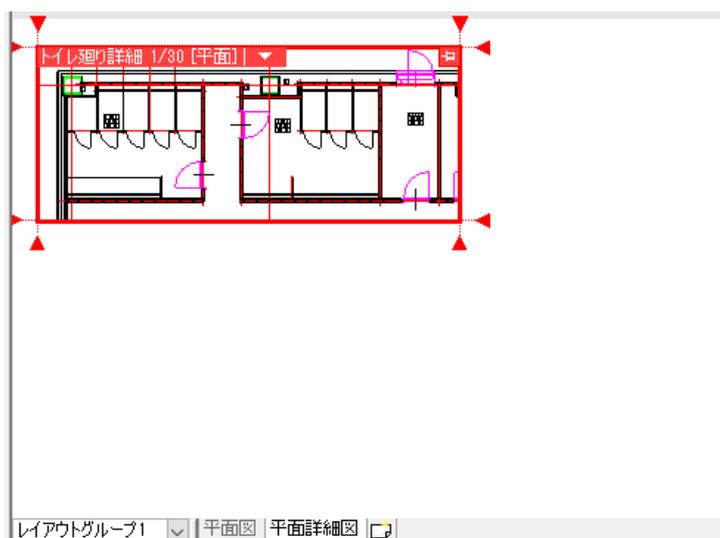
- 3 詳細図に表示する範囲を対角2点でクリックします。



- 4 詳細図を配置する位置でクリックします。



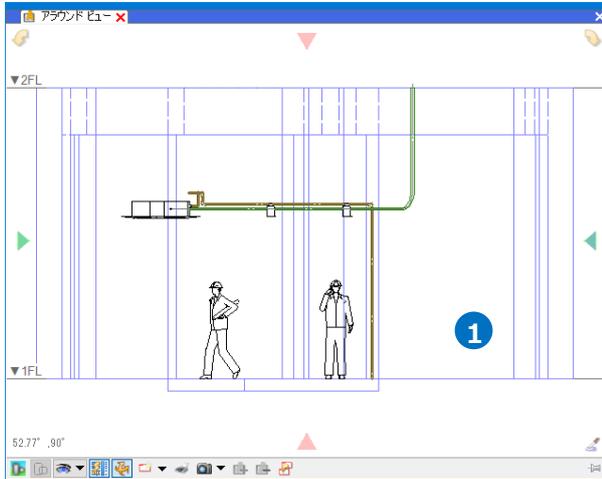
- 5 コンテキストメニューから[確定]またはEnterキーを押します。



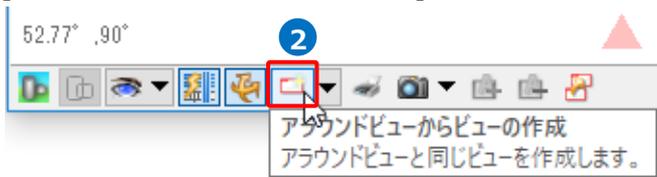
ア라운드ビューからビューを作成する

ア라운드ビューに表示された状態のままビューを作成します。作成したビューはクリップが設定されます。

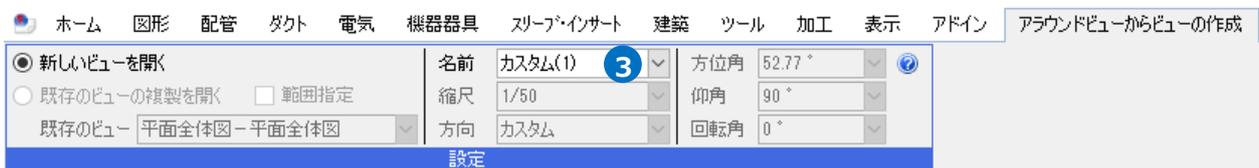
- 1 ア라운드ビューの視点方向をビューとして作成する向きに設定します。



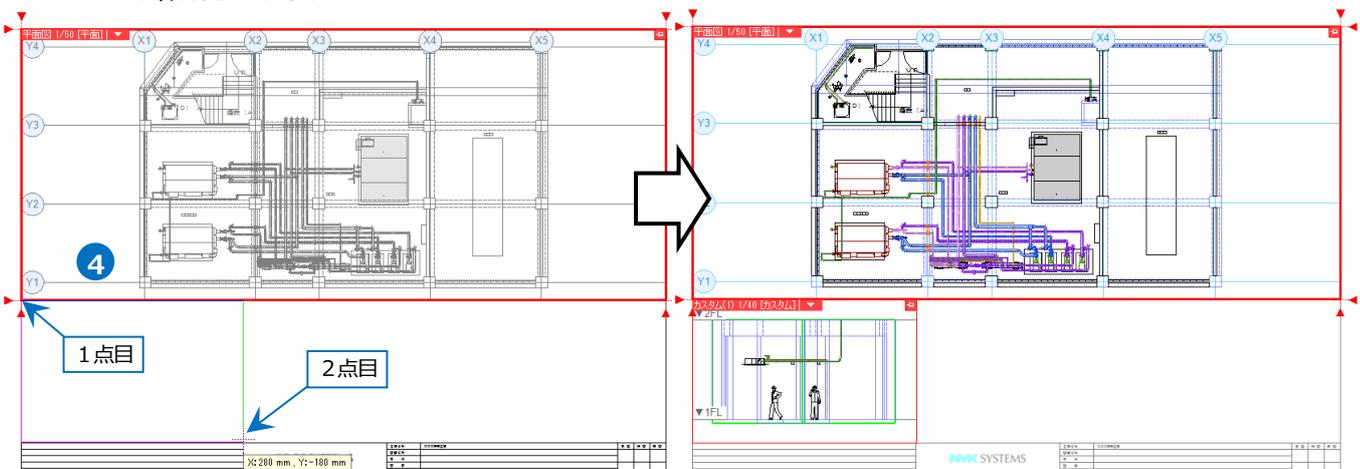
- 2 [ア라운드ビューからビューの作成]をクリックします。



- 3 作成するビューの名前を入力します。



- 4 配置する位置で、作成するビューの範囲を対角2点でクリックします。
→ビューが作成されます。

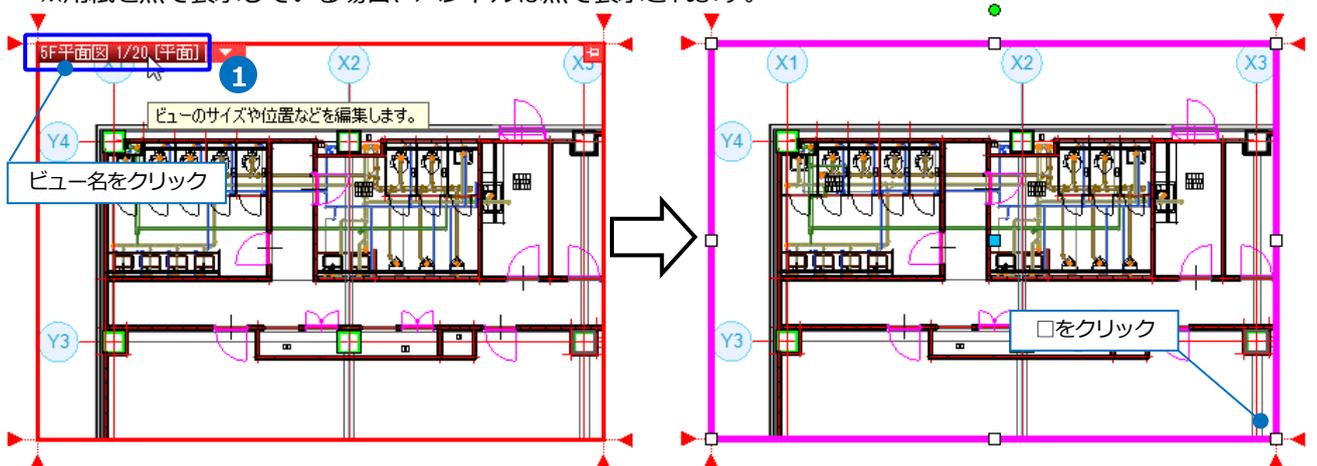


3.ビューの編集

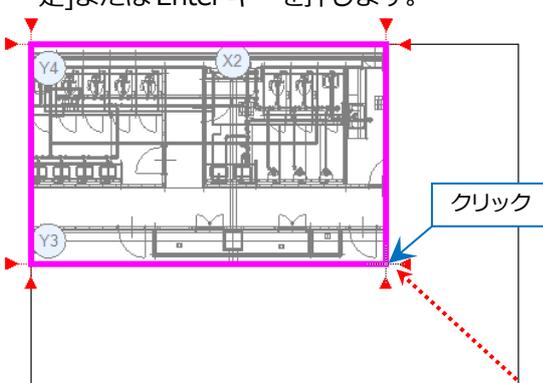
ビューのサイズ変更、移動

サイズ変更

- 1 ビュー名をクリックします。ビューの角と4辺にサイズ変更のハンドル(白)が表示されます。
※用紙を黒で表示している場合、ハンドルは黒で表示されます。



- 2 ハンドルをクリックし、ビューのサイズを変更します。変更位置でクリックし、コンテキストメニューから[確定]またはEnterキーを押します。



Memo

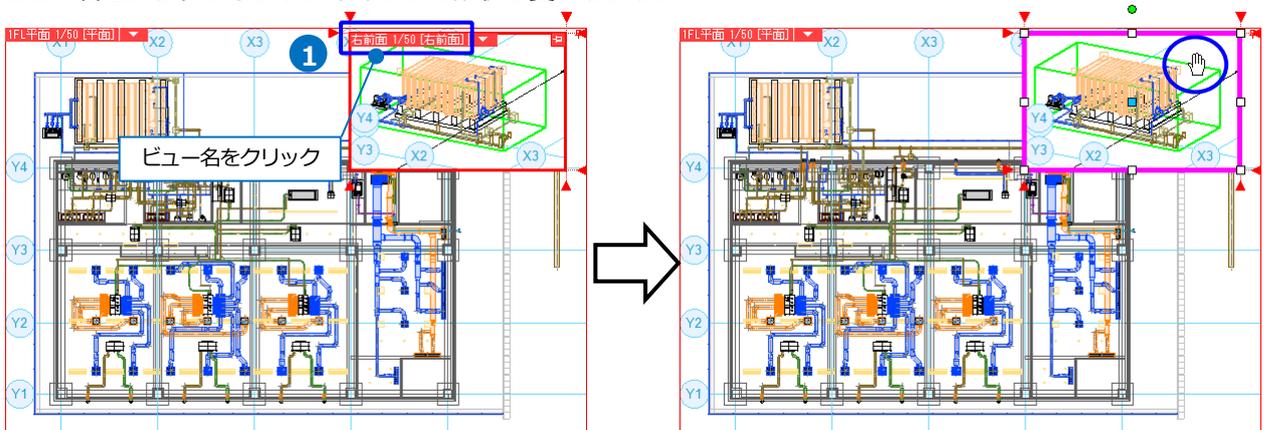
[中心揃え]にチェックを入れると、表示しているビューの中心を固定した状態でサイズ変更します。

<input checked="" type="radio"/> サイズの変更	<input checked="" type="checkbox"/> 中心揃え	<input checked="" type="checkbox"/> 余白も連動
<input type="radio"/> 余白の変更	<input type="checkbox"/> ビューのサイズに合わせて縮尺を変える	

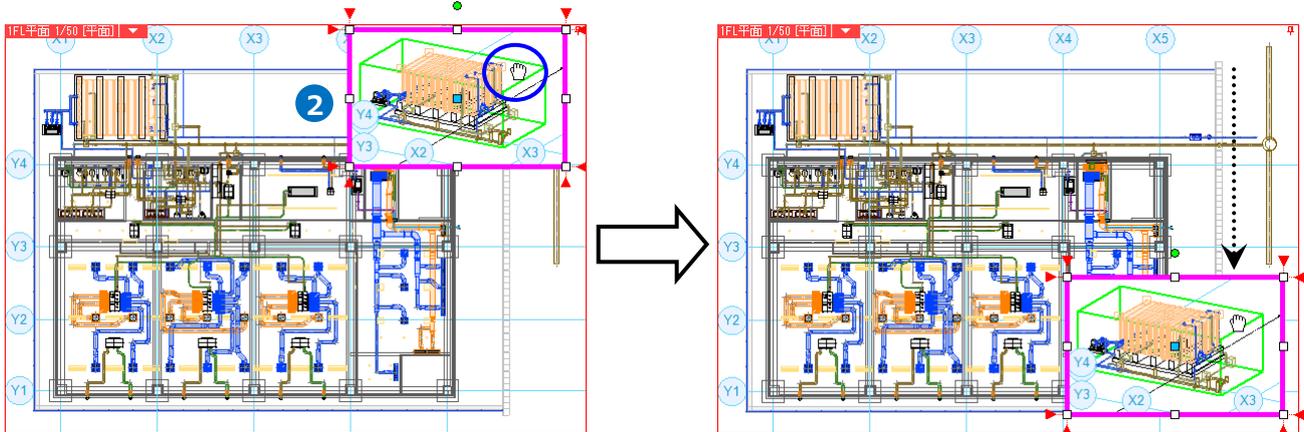
サイズ変更ハンドル

移動

- 1 ビュー名をクリックします。ポインタの形状が変わります。



- 2 左ドラッグでビューを移動します。コンテキストメニューから[確定]またはEnterキーを押します。



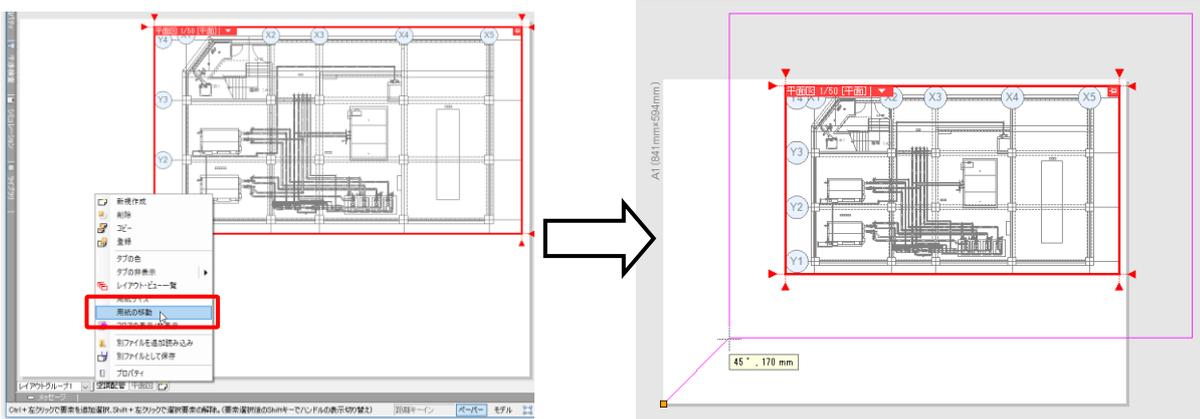
Memo

[ビューの選択]の[ビューを追加選択]をクリックすると、複数のビューをまとめて選択できます。



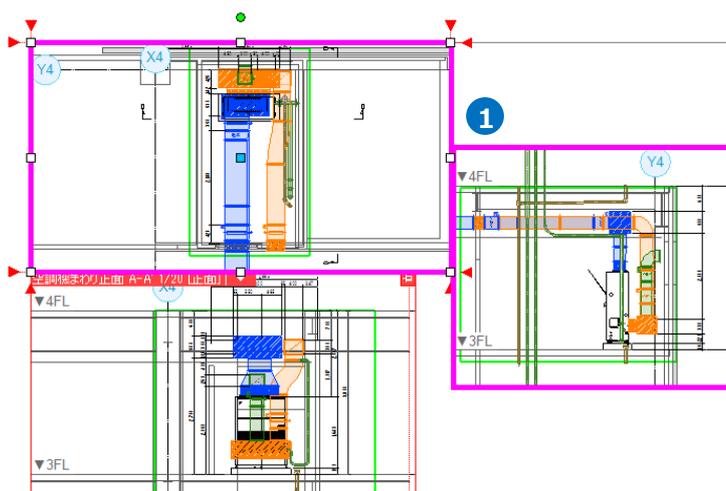
● 補足説明

レイアウトタブを右クリックして表示されるメニューの[用紙の移動]で、ビューの位置はそのままで用紙範囲を移動することができます。印刷範囲は移動後の用紙範囲となります。

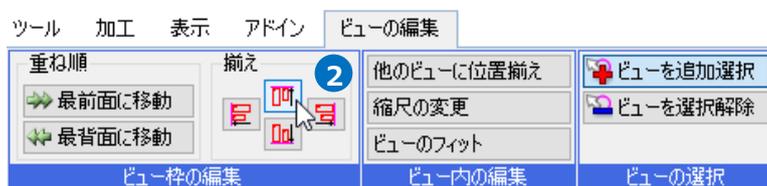


ビュー枠の揃え

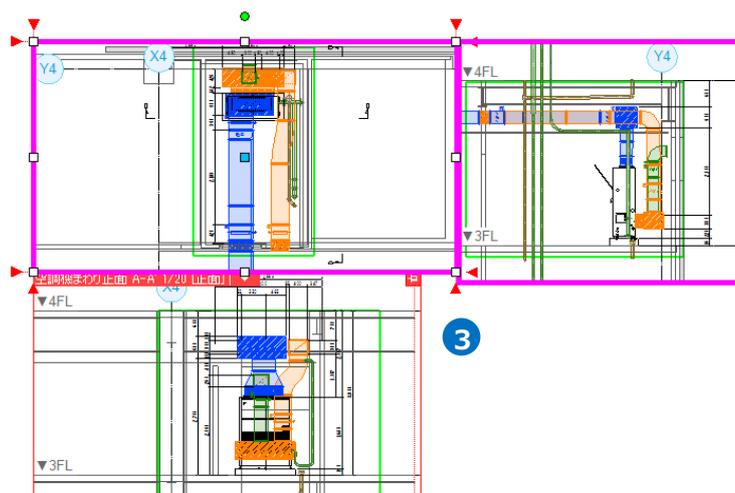
- 1 ビュー枠を揃えたいビューを、[ビューを追加選択]で選択します。



- 2 [ビュー枠の編集]の[揃え]で揃える方向を指定します。

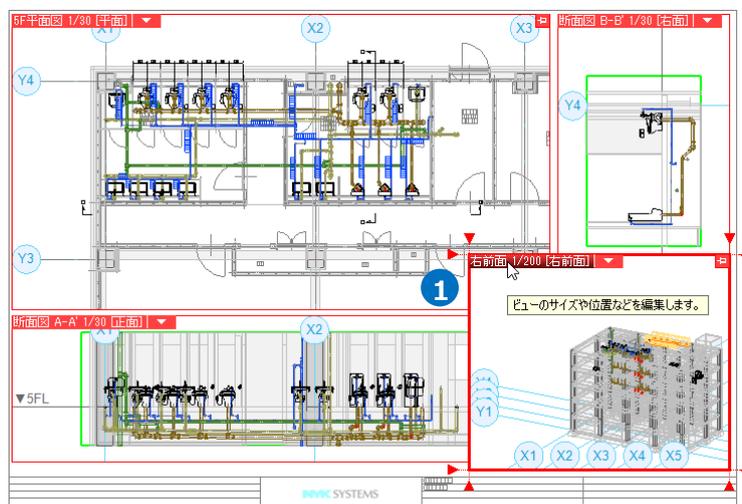


- 3 ビュー枠の位置が揃います。コンテキストメニューから[確定]またはEnterキーを押します。



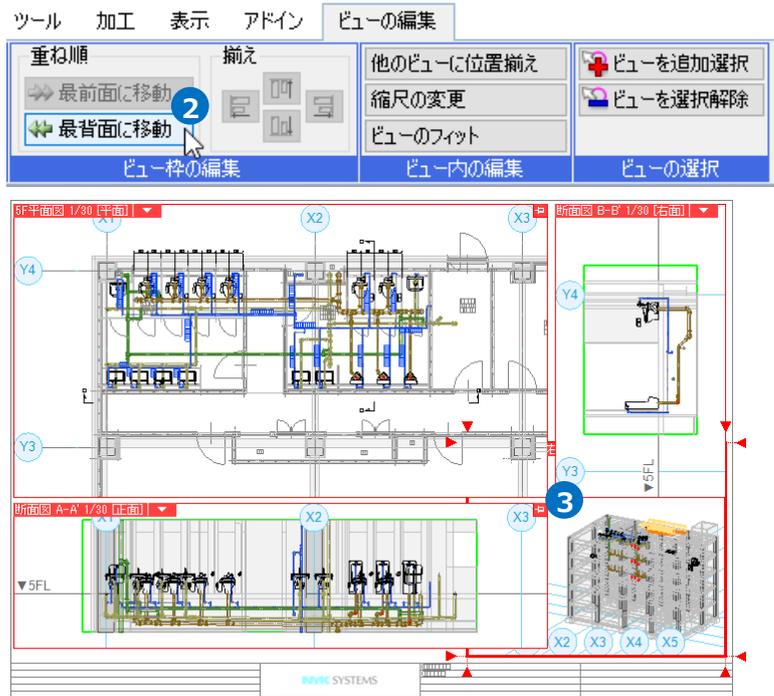
ビューの重ね順

- 1 重ね順を変更したいビューのビュー名をクリックします。



2 [ビュー枠の編集]の[重ね順]で[最背面に移動]を指定します。

3 指定したビューが最背面に移動します。

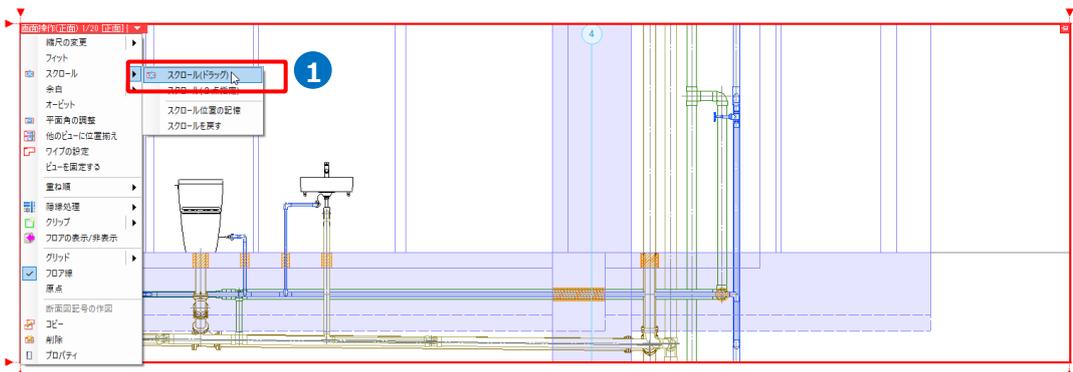


Memo

ビューの重ね順はビュー名横の[▼]をクリックし、ビューメニューの[重ね順]からも指定できます。

ビューの表示位置の変更

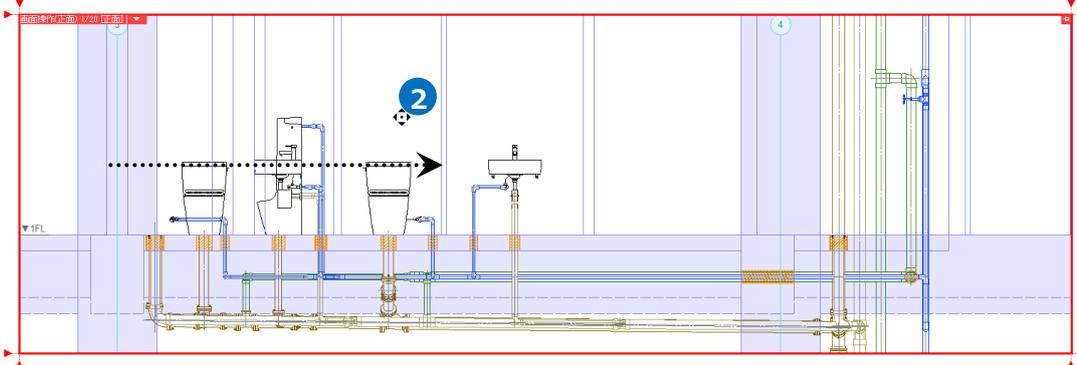
1 ビューのメニューから[スクロール]-[スクロール(ドラッグ)]を選択します。



Memo

[スクロール(2点指定)]を選択すると、ビューに表示する基準位置と、移動先を指定して変更することができます。

2 左ドラッグでビューに表示する位置を調整し、コンテキストメニューから[確定]または Enter キーを押します。

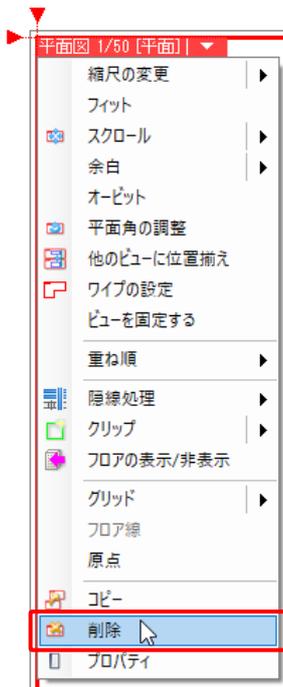


● 補足説明

Ctrl キーを押しながらホイールをドラッグすると、他のコマンド起動中でも表示位置を変更することができます。

ビューの削除

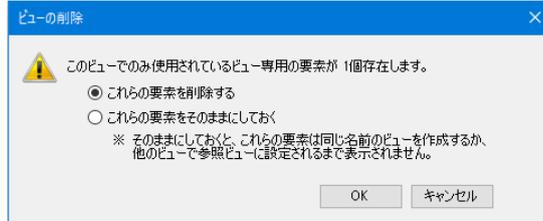
ビューのメニューから[削除]を選択します。



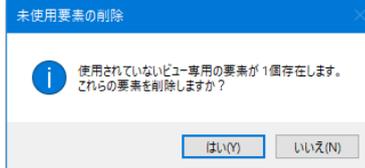
Memo

ビューを削除する時、ビュー専用要素が削除するビュー以外のどのビューにも表示されていない場合、ビュー専用要素も削除するかそのままにしておくか選択できます。

「これらの要素をそのままにしておく」を選択すると、ビュー専用要素は同じ名前のビューを作成するまで表示されません。

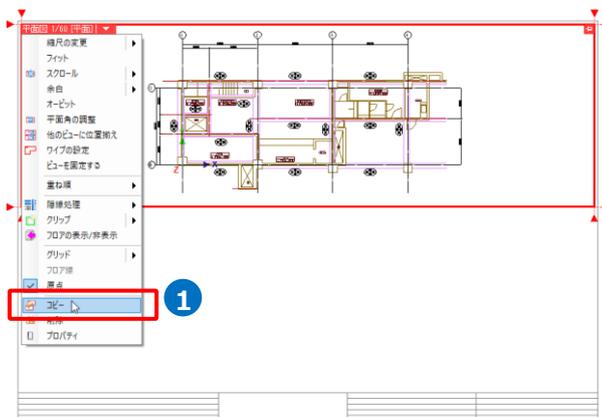


「これらの要素をそのままにしておく」を選択した場合、図面の保存時に、そのままにした要素を削除する、しないの選択を行います。

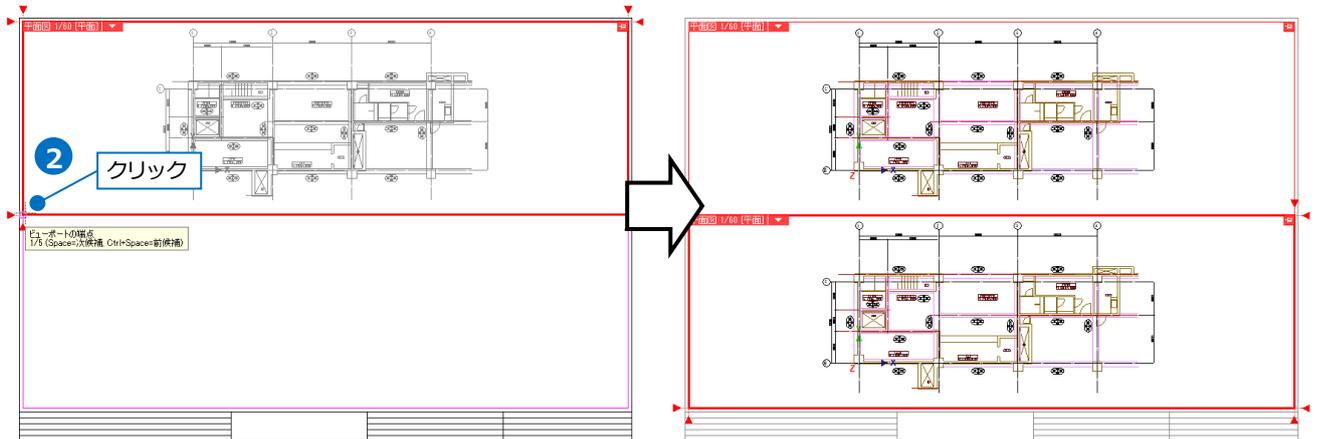


ビューのコピー

- 1 ビューのメニューから[コピー]を選択します。



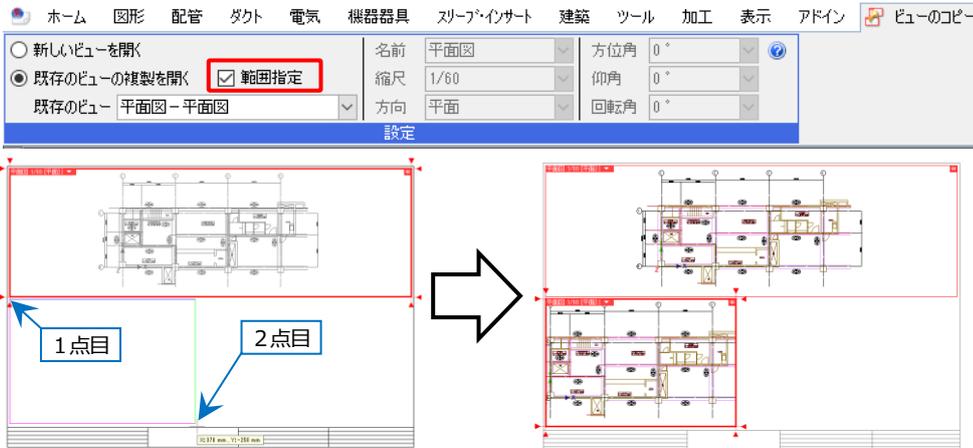
- 2 コピーしたビューを貼り付ける位置でクリックします。



● 補足説明

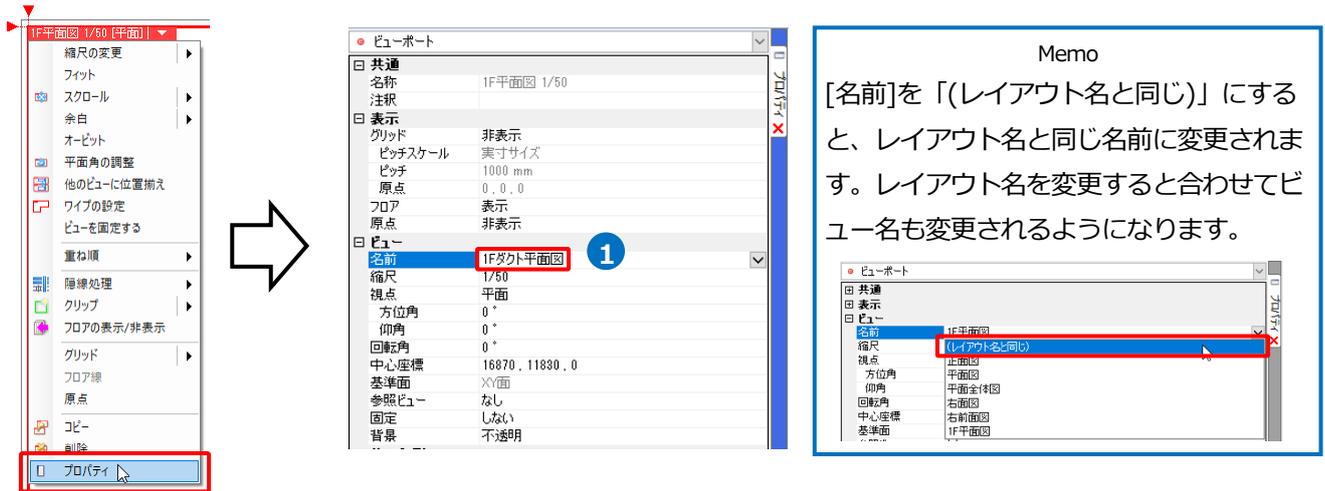
コピーしたビューのサイズを貼り付け時に変更することができます。

[範囲指定]にチェックを入れ、貼り付ける位置でビューの範囲の対角2点をクリックします。



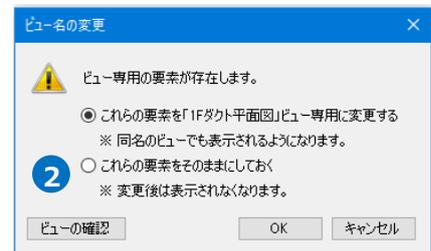
ビュー名の変更

① ビューのメニューから[プロパティ]を選択し、プロパティの[ビュー]-[名前]を変更します。



② [ビュー名の変更]ダイアログが開き、名前を変更するビューのビュー専用要素を変更後のビュー専用要素にするか、変更前のビュー専用要素として残すか選択します。

「これらの要素をそのままにしておく」を選択した場合、名前を変更したビューでは表示されなくなります。



● 補足説明

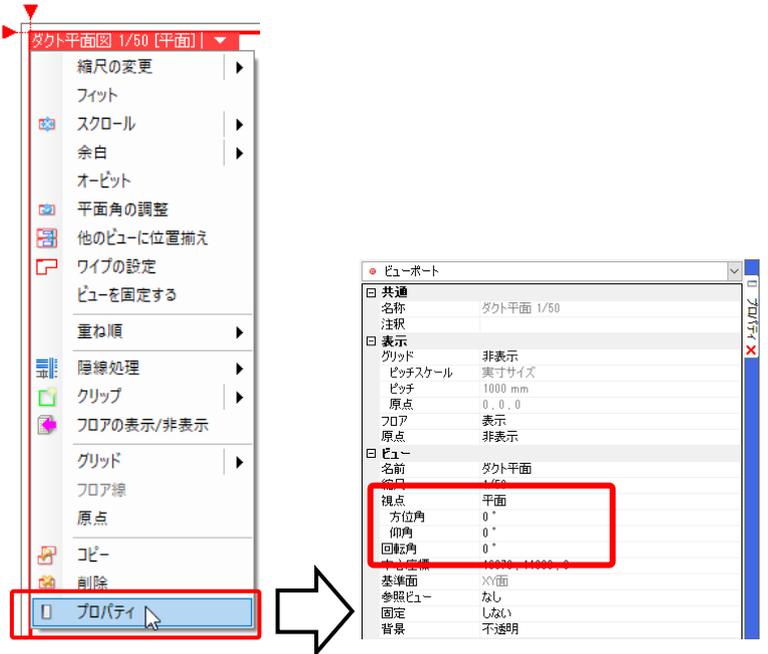
既存のビューと同名のビューを作成すると、既存のビューの「ビュー専用」として作図された要素も表示されます。

ビューの視点変更

ビューの視点方向を変更するには、角度指定またはビュー上で自由に視点方向が変更できるオービットを使用します。

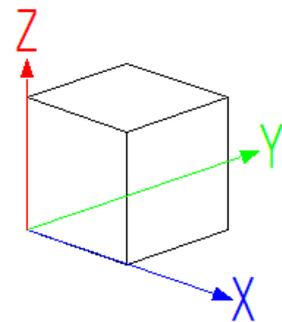
角度指定

ビューのメニューから[プロパティ]を選択します。
プロパティの[ビュー]-[視点]または方位角や仰角に角度を入力します。



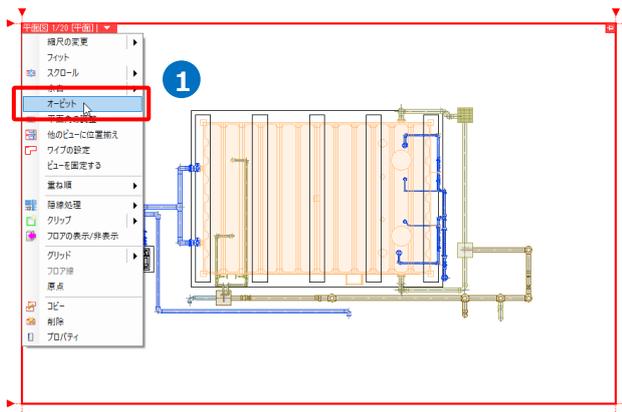
・視点と角度について

視点	平面、正面、右面、左面、背面、裏面、右前面、左前面、右後面、左後面から選択します。
方位角	Z 軸を軸として回転する角度 (+ 数値は反時計回り、- は時計回り)
仰角	Y 軸の位置を起点として、Z 軸を傾ける角度 (真上が 0°、正面、背面、右側面、左側面では 90°)
回転角	画面上の見た目を水平として回転する角度 (+ 数値は反時計回り、- は時計回り)

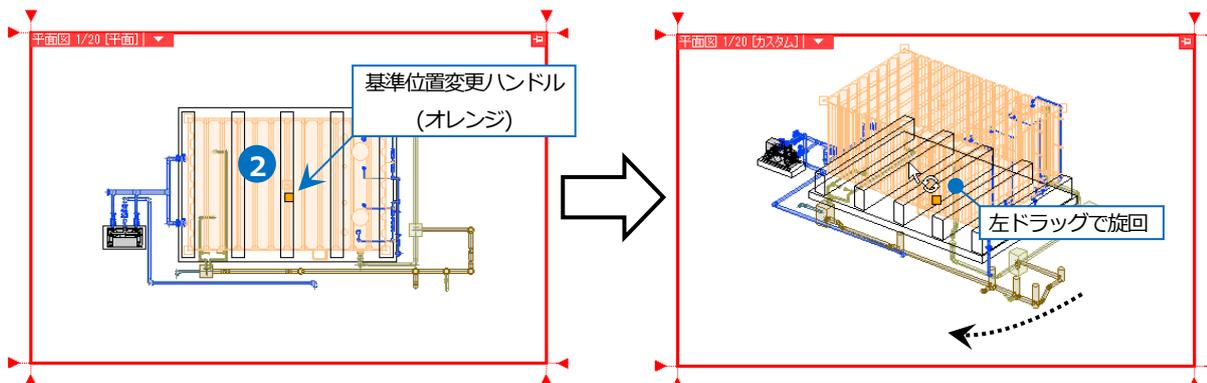


オービット

- 1 ビューのメニューから[オービット]を選択します。



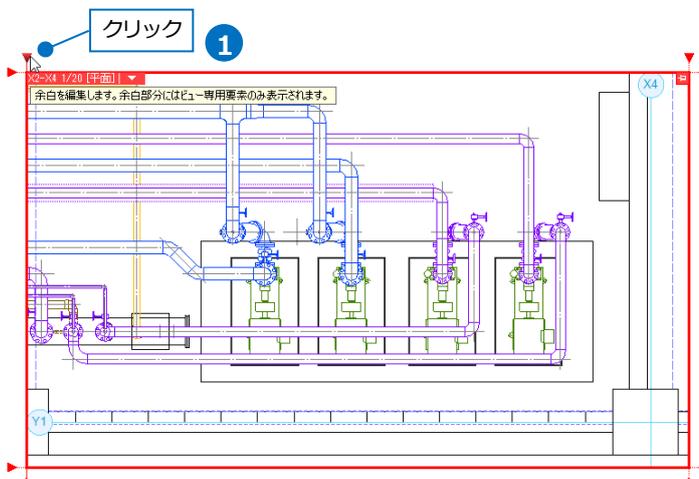
- 2 ビューの中央に基準位置変更ハンドル(オレンジ)が表示されます。ハンドルをクリックすると、回転の基準位置を変更できます。左ドラッグで表示方向を変更し、コンテキストメニューから[確定]またはEnterキーを押します。



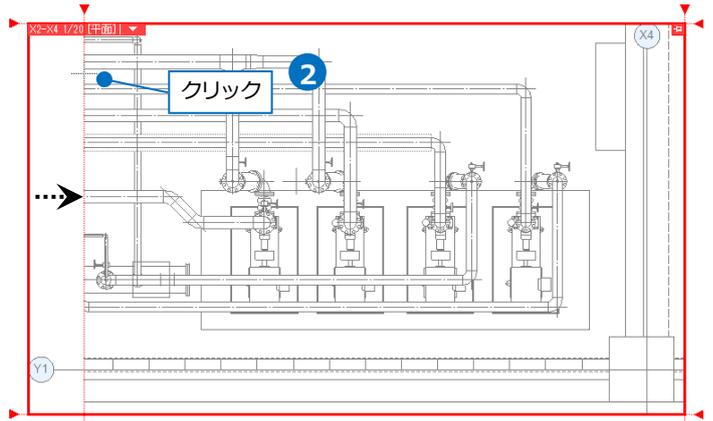
通り芯や寸法線を書き込むスペースを作る(余白)

余白は、通り芯や寸法線などのビュー専用要素を書き込むスペースです。余白を設定した範囲には、ビュー共通、平面ビュー共通要素は表示されず、ビュー専用要素のみ表示されます。余白はビューごとに設定することができます。

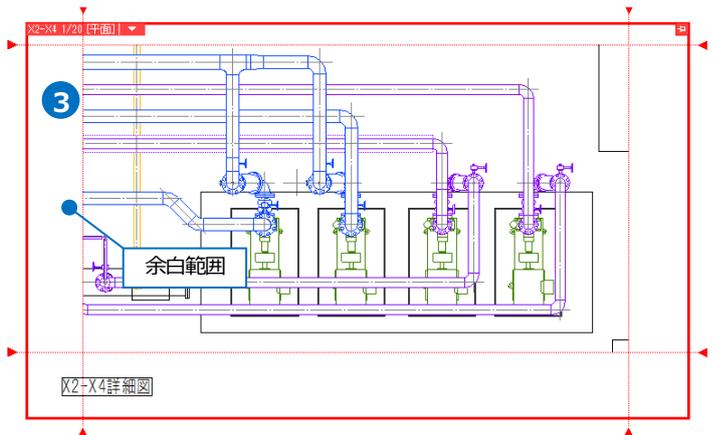
- 1 カレントビューの外側に表示されている三角のハンドルをクリックします。



- ② ハンドルをビューの内側に移動し、余白の範囲の位置でクリックします。
同様に必要に応じて、4方向の余白の範囲を設定します。



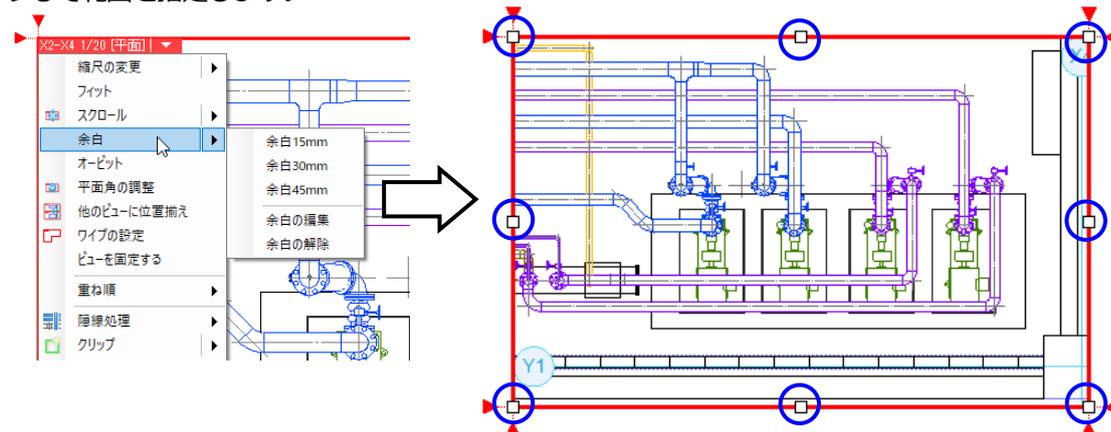
- ③ 余白範囲は赤の点線で表示され、その点線は印刷されません。
寸法線や文字をビュー専用で作図すると、余白内でも表示されます。



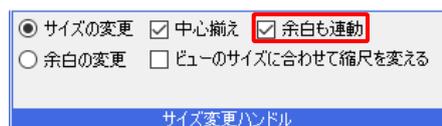
● 補足説明

ビューメニューの[余白]コマンドでも余白の範囲を設定することができます。

コマンドをクリックすると、ビューの角と、4辺に余白位置変更ハンドル(白)が表示されます。ハンドルをクリックして範囲を指定します。

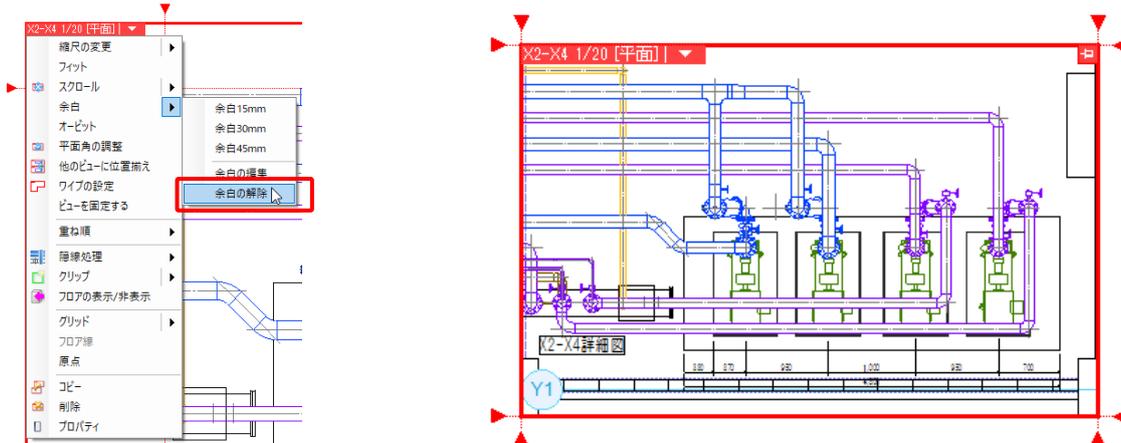


ビューのサイズを変更する時(p.15 参照)、[余白も連動]にチェックを入れると、変更位置に合わせて余白も移動します。



余白を解除する

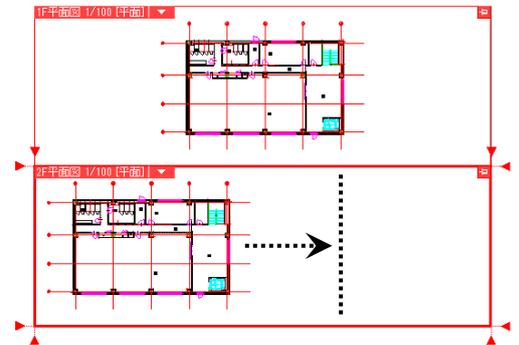
設定した余白を解除します。ビューのメニューから[余白]-[余白の解除]を選択します。



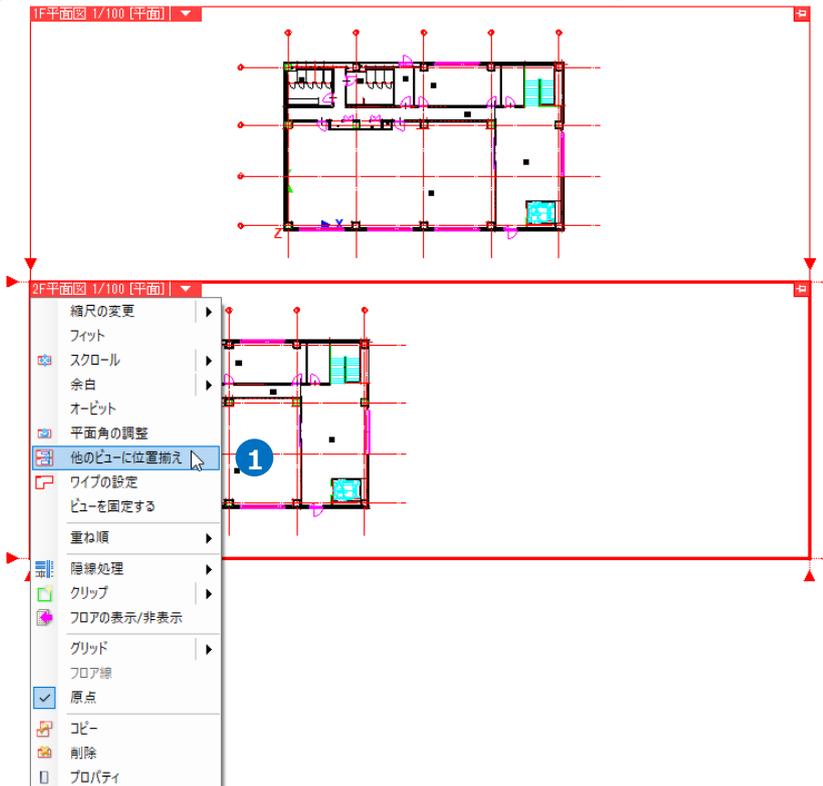
ビューの位置を揃える

レイアウトに配置したビューの原点に合わせて同じ縮尺のビューの表示位置を揃えることができます。

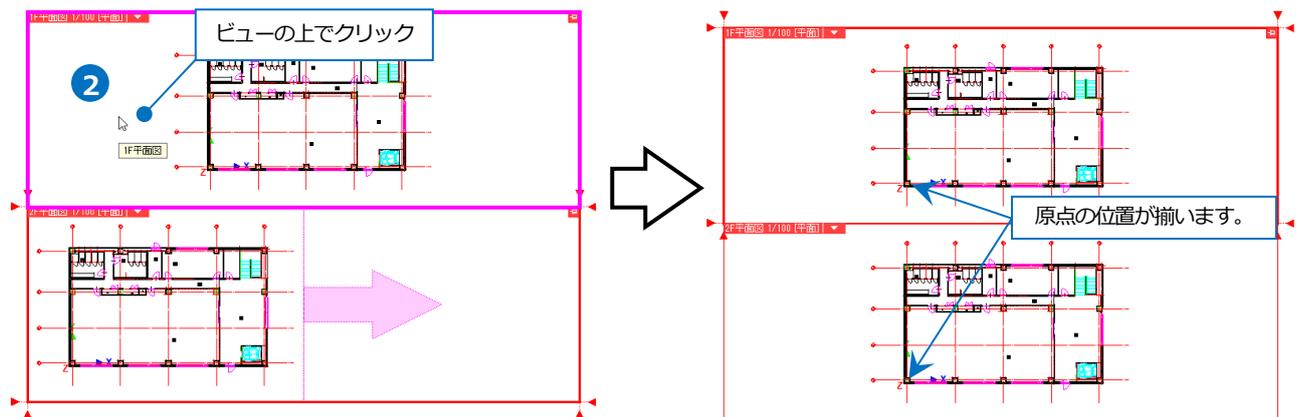
1F 平面ビューと 2F 平面ビューの位置を揃えます。



1 揃えるビューのメニューから[他のビューに位置揃え]を選択します。

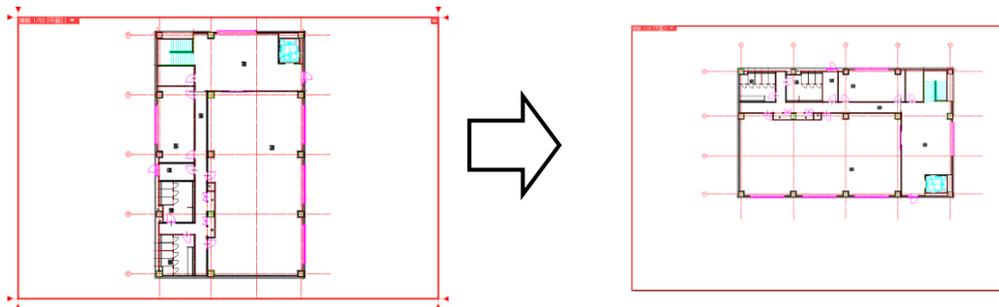


- 2 揃えたいビューの上にマウスカursorを移動し、クリックします。



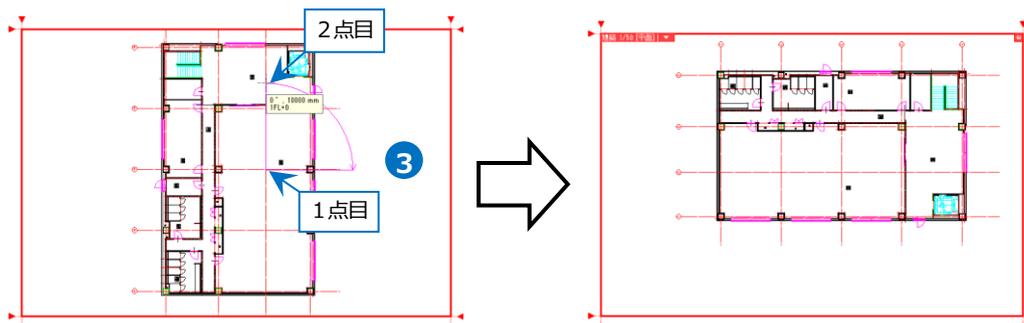
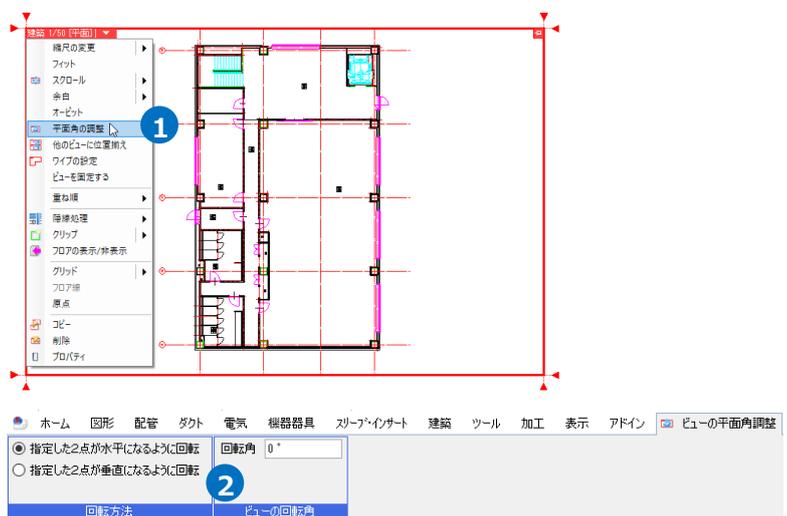
ビューの平面角度を調整する

座標指定または回転角度を数値入力で指定し、ビューの平面角度を調整します。



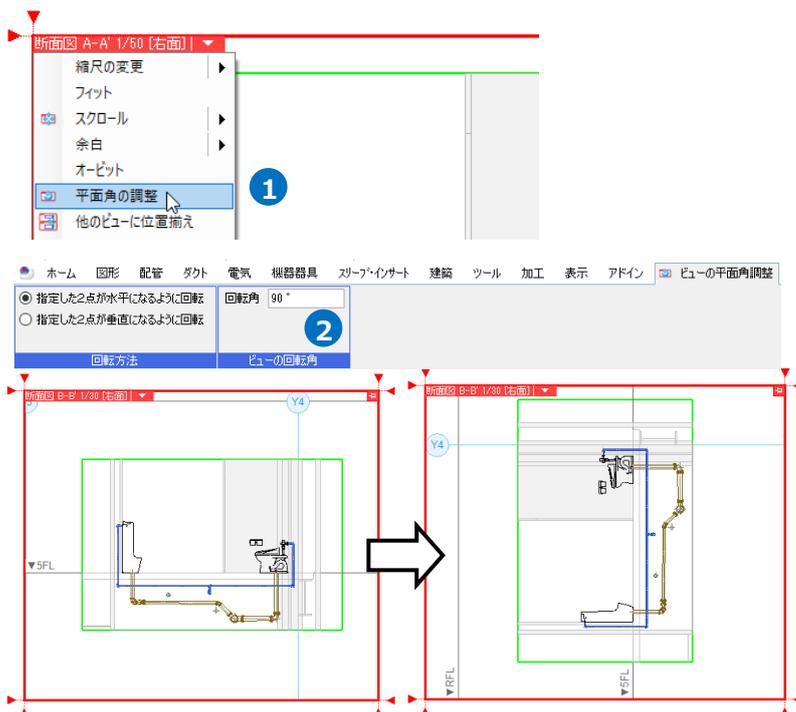
座標指定

- 1 ビューのメニューから[平面角の調整]を選択します。
- 2 座標指定する2点を水平、垂直どちらにするか指定します。
「指定した2点が水平になるように回転」を選択します。
- 3 回転の基準位置を1点目、水平にする位置を2点目に座標指定します。



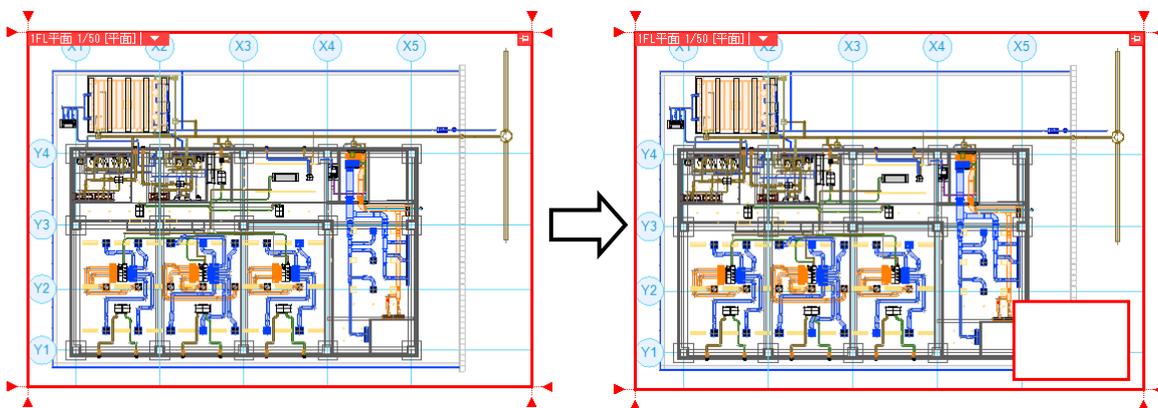
角度を数値入力

- 1 ビューのメニューから[平面角の調整]を選択します。
- 2 リボンの[回転角]に角度を入力し、Enter キーで確定します。

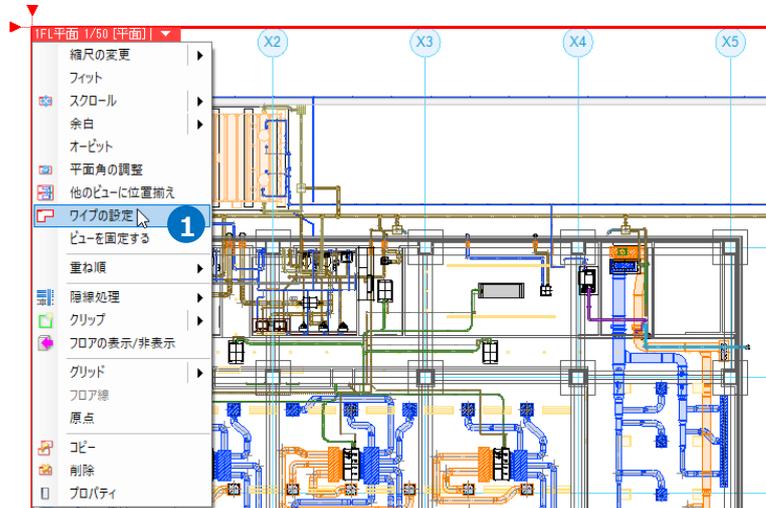


ビューの内部をくり抜く(ワイブの設定)

ビュー内に空白部分(ワイブ)を作ります。



- 1 ビューのメニューから[ワイブの設定]を選択します。

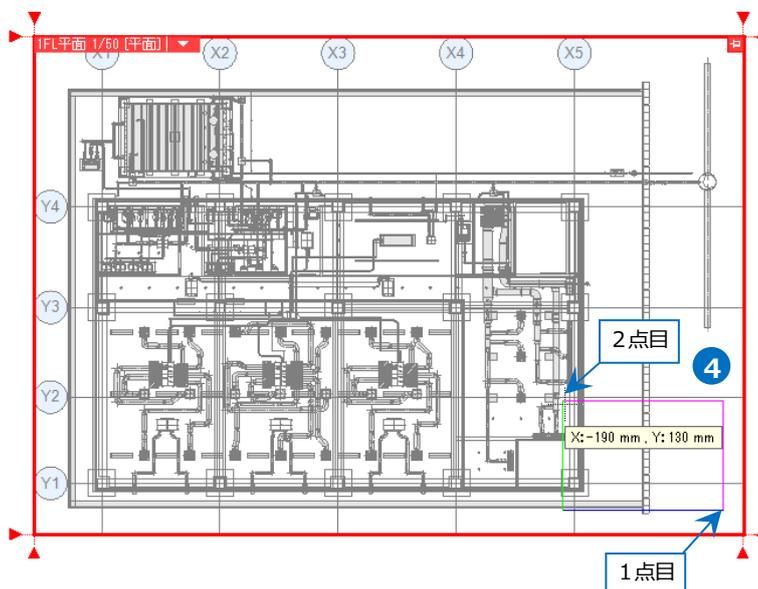


- 2 リボンの[編集方法]から[ワイブの作図]を選択します。



- 3 [作図方法]からワイブのサイズの設定方法を選択します。ここでは「対角の2点を指定」を選択します。

- 4 ビュー内で、くり抜く範囲を対角2点で指定します。
→指定した範囲の内部が空白になります。



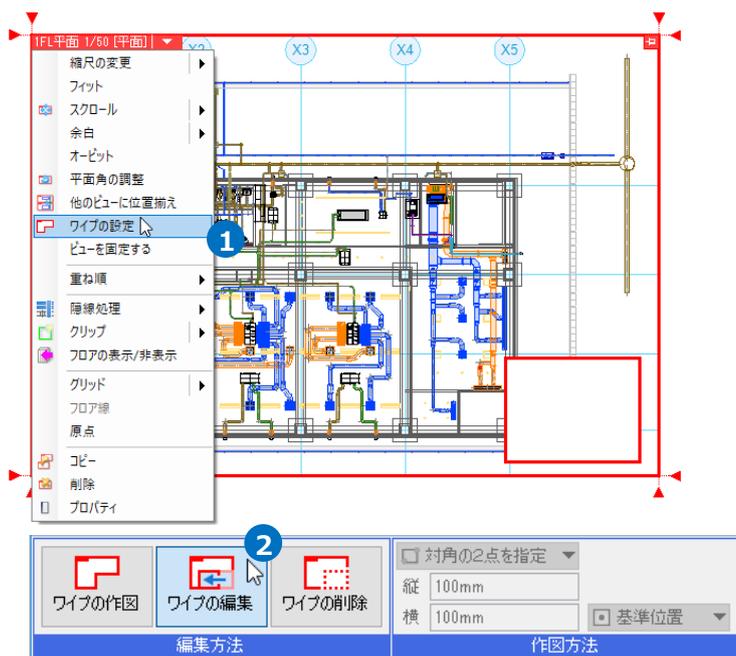
- 補足説明

外側のビューを、プロパティの[枠の印刷]-[印刷]を「する」にした場合、印刷されるのは外枠のビューのみです。ワイブの枠は印刷されません。ワイブの内部は、ペーパー要素が作図できます。

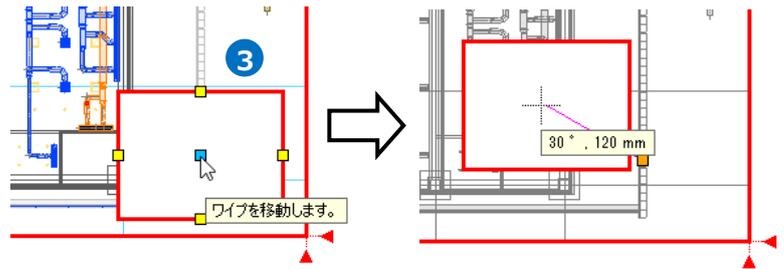
ワイブの移動、サイズの変更

配置したワイブの位置の移動や、サイズの変更をします。

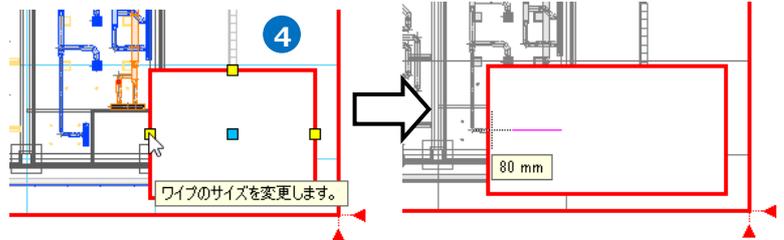
- 1 ビューのメニューから[ワイブの設定]を選択します。
- 2 リボンの[編集方法]から[ワイブの編集]を選択します。



- 編集するワイブのハンドルをクリックします。
移動のハンドル(青)をクリックすると、サイズはそのままワイブを移動します。



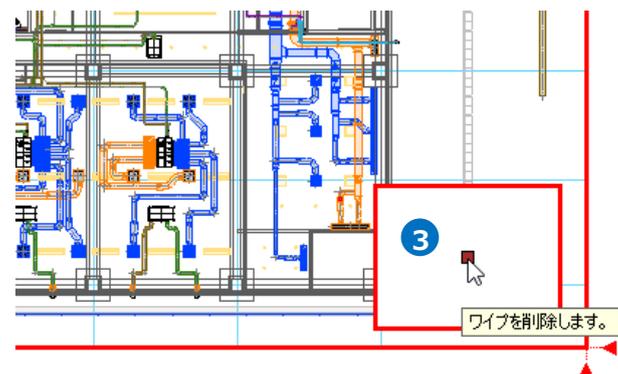
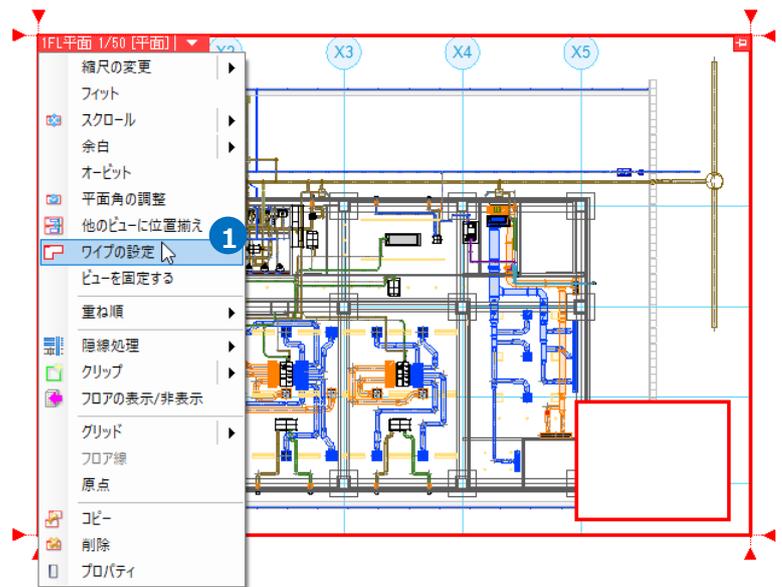
- サイズ変更のハンドル(黄)をクリックすると、指定した辺が移動し、サイズを変更します。



ワイブの削除

配置したワイブを削除します。

- ビューのメニューから[ワイブの設定]を選択します。
- リボンの[編集方法]から[ワイブの削除]を選択します。
- 削除するワイブの中央にあるハンドル(茶)をクリックします。
→ワイブが削除されます。

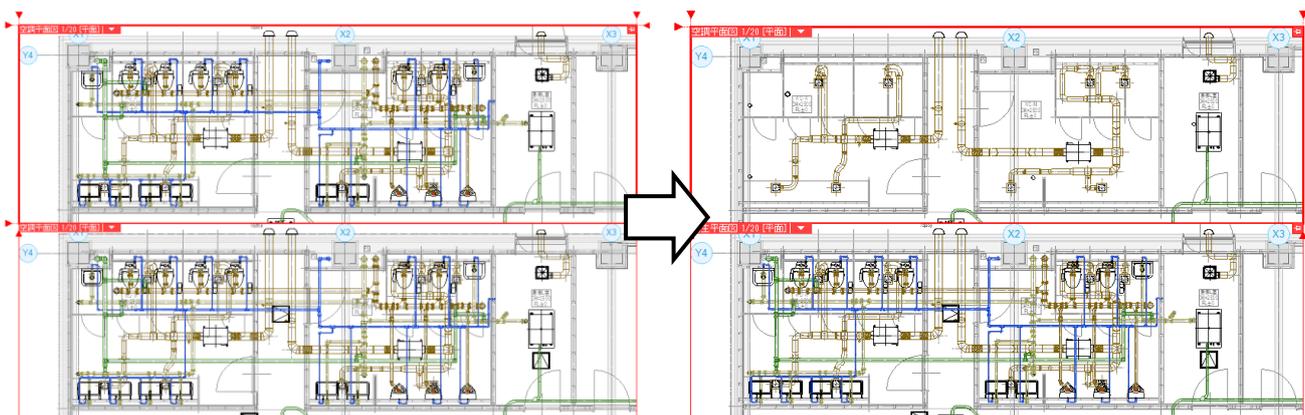


4.ビューに表示する要素の制御

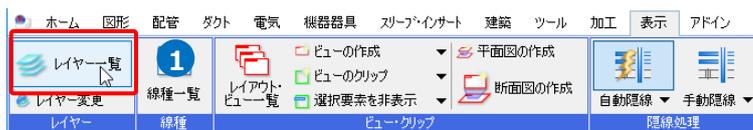
レイヤーで表示を制御する

レイヤー一覧でビューごとに表示するレイヤーを指定することができます。

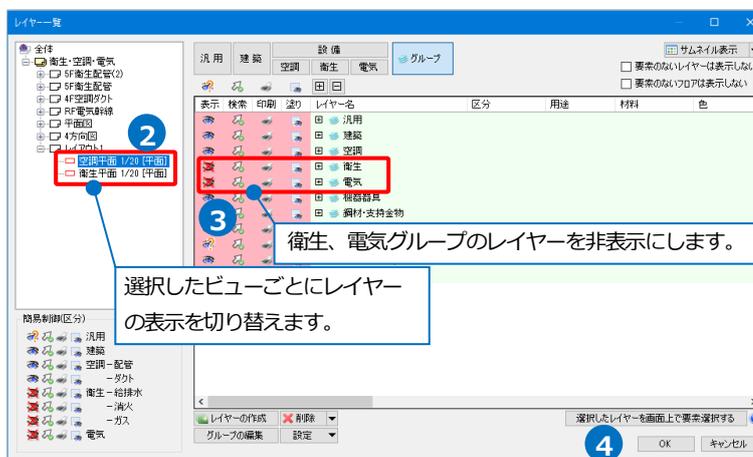
空調平面ビューの衛生、電気レイヤーを非表示にします。



- 1 [表示]タブ-[レイヤー一覧]をクリックします。

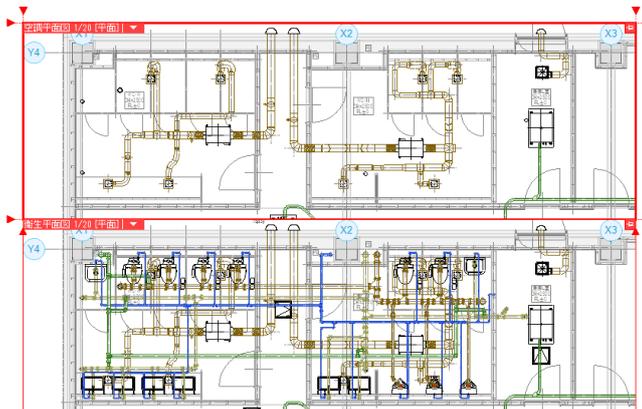


- 2 対象選択エリアから制御するビューを選択します。ビューを選択すると、アイコンの背景はピンク色になります。



- 3 非表示にするレイヤーの[表示]アイコンをクリックし、非表示にします。

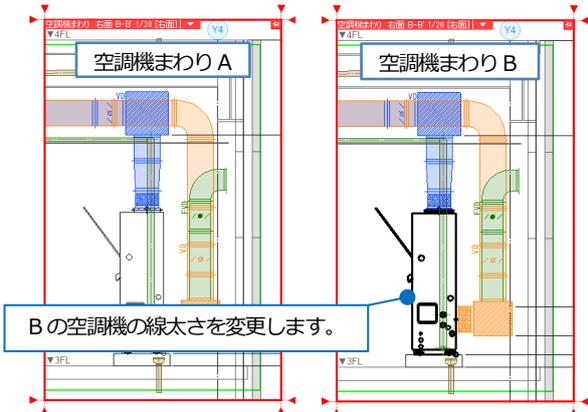
- 4 [OK]をクリックします。衛生と電気のレイヤーグループが非表示になります。



ビューごとにレイヤーデザインを変更する

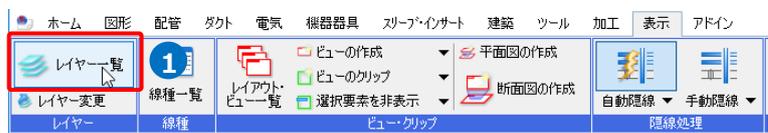
レイヤーに設定された色、線太さ、線種をビューごとに変更することができます。

空調機の線太さを B のビューで太く強調して表示します。

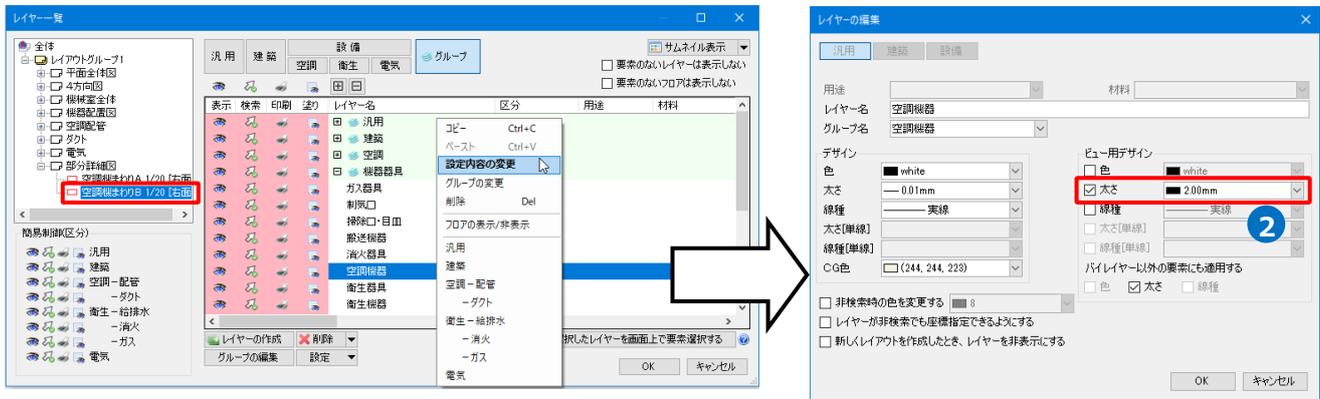


B の空調機の線太さを変更します。

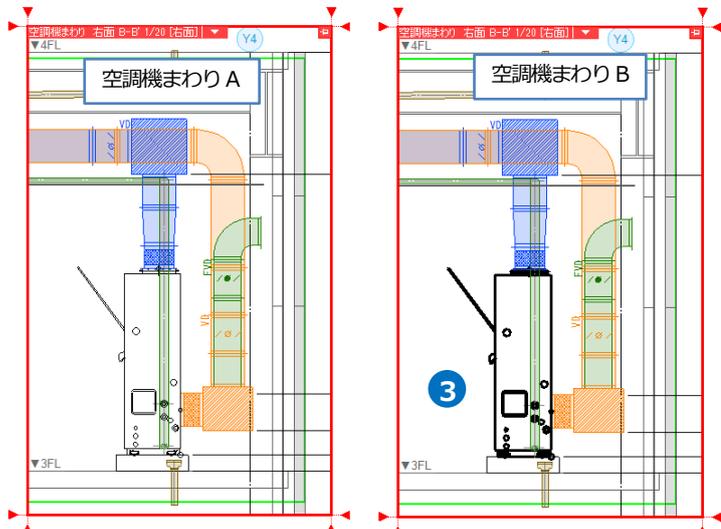
- 1 [表示]タブ-[レイヤー一覧]を起動します。



- 2 対象選択エリアから、デザインを変更する B のビューを選択します。「空調機器」レイヤーを選択し、コンテキストメニューの[設定内容の変更]をクリックします。ビュー用デザインの[太さ]にチェックを入れ、線太さを選択します。[OK]をクリックします。

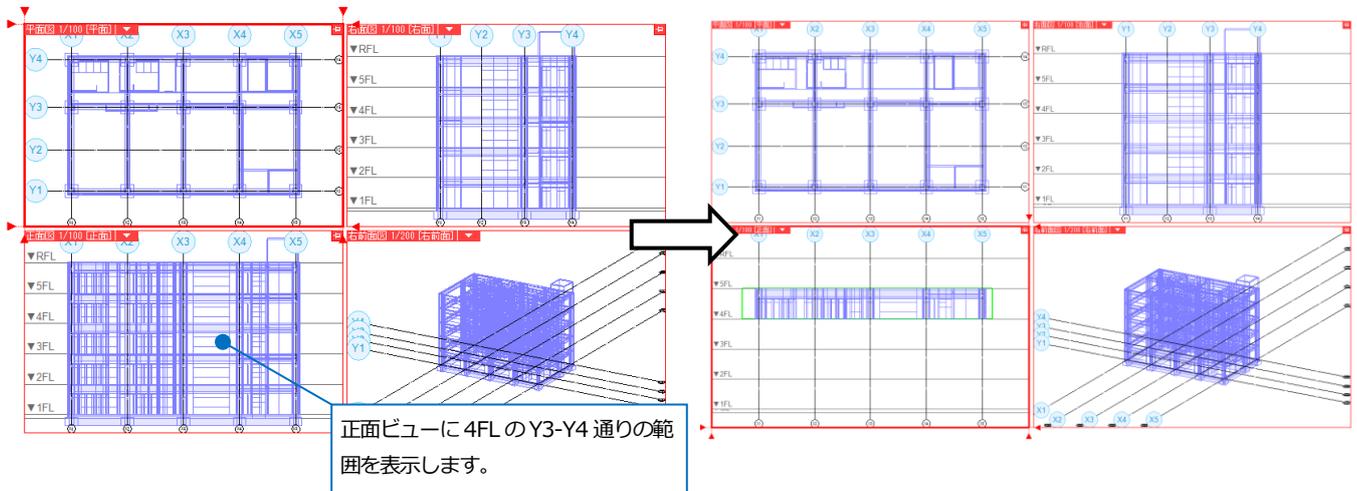


- 3 B のビューの空調機の線太さが変わります。



指定した範囲のみ表示する(クリップ)

[クリップ]とは指定した範囲のみを表示する機能です。クリップはビューごとに範囲を指定します。範囲は複数指定することができます。クリップ範囲には、緑の枠が表示されます。この枠は画面にのみ表示し、印刷されません。



クリップを設定する

ビューを選択してクリップを設定します。

- 1 [表示]タブ-[ビューのクリップ]をクリックします。



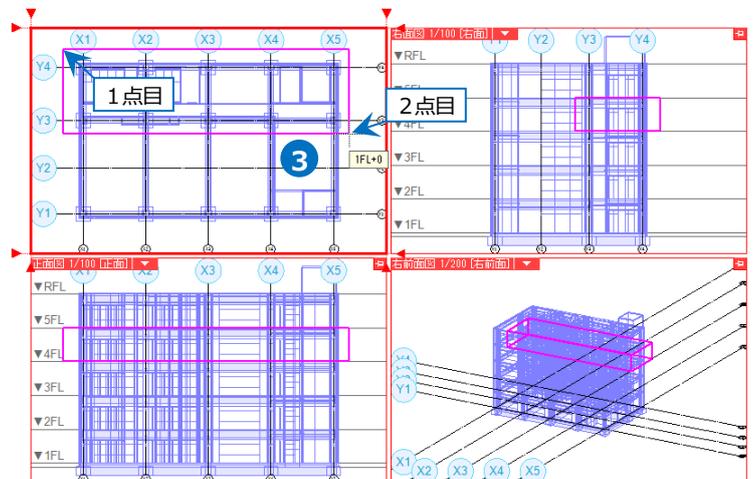
- 2 「追加」を選択し、表示する範囲の基準フロア、高さを指定します。



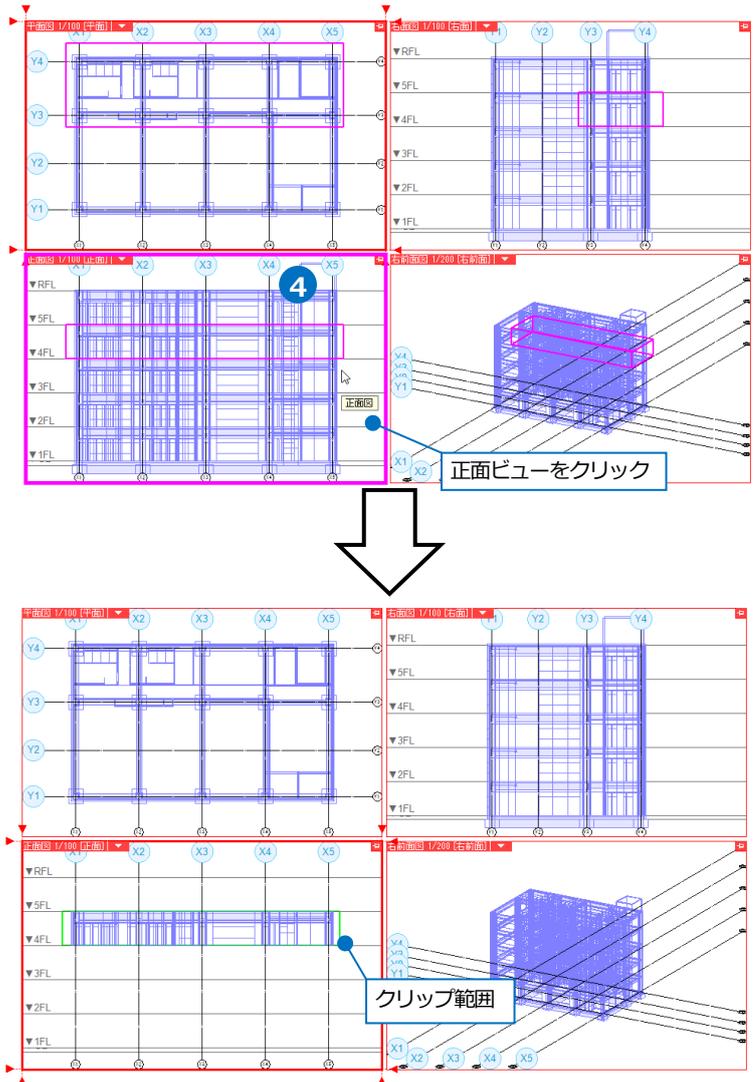
[上面に接する部材を表示する]にチェックを入れると、クリップ範囲の上面に接する位置に配置された機器や躯体は表示されます。チェックを外すと非表示になります。

[省略記号の表示]にチェックを入れると、クリップ範囲でカットした配管、ダクト、電気ルートに省略記号を表示します。

- 3 平面ビュー上でクリップ範囲の対角2点をクリックします。指定したクリップ範囲にラバーが表示されます。

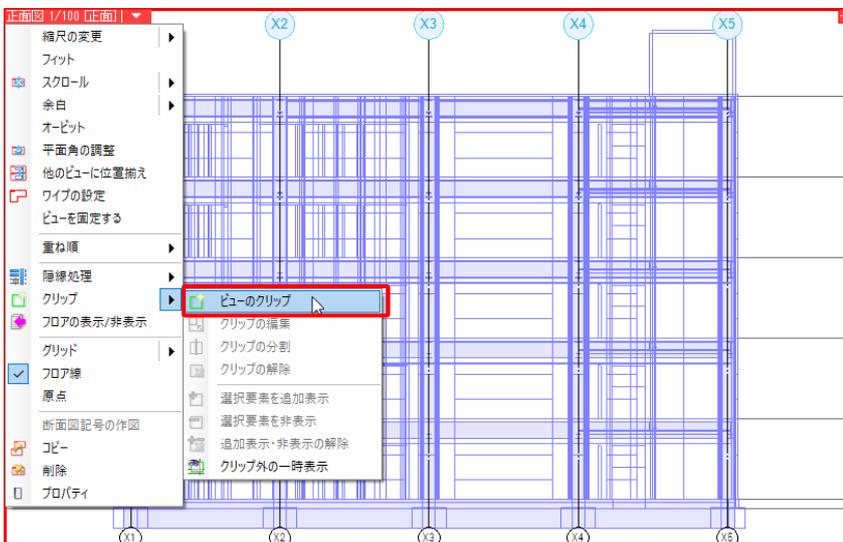


- 4 クリップを設定するビューをクリックで指定します。



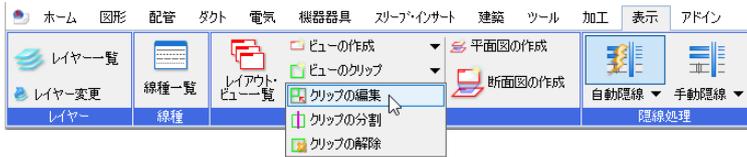
● 補足説明

クリップは、クリップを設定したいビューのメニューから設定することもできます。



● 補足説明

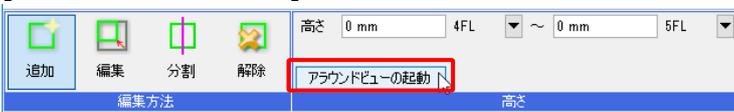
[表示]タブ-[ビューのクリップ]横の[▼]-[クリップの編集]からコマンドを起動することもできます。



また、[ビューのクリップ]コマンドのリボンで[編集]をクリックすると、[ビューのクリップ編集]コマンドに切り替わります。



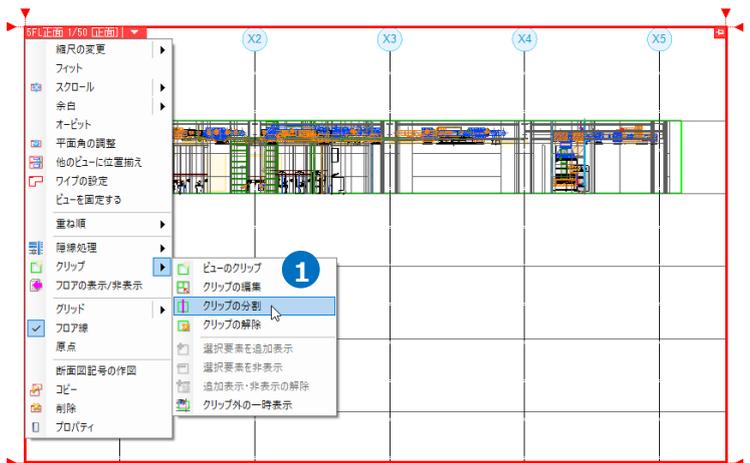
[アラウンドビューの起動]で、クリップを追加、編集集中にアラウンドビューを起動することができます。



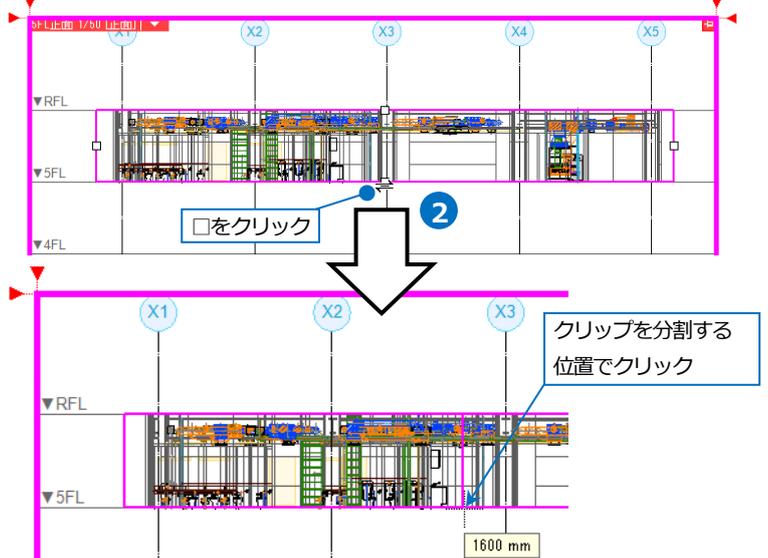
クリップの分割

クリップの範囲を分割します。

- 1 クリップを設定したビューのメニューから[クリップ]-[クリップの分割]を選択します。
→各ビューに指定したビューのクリップ範囲がラバーで表示されます。

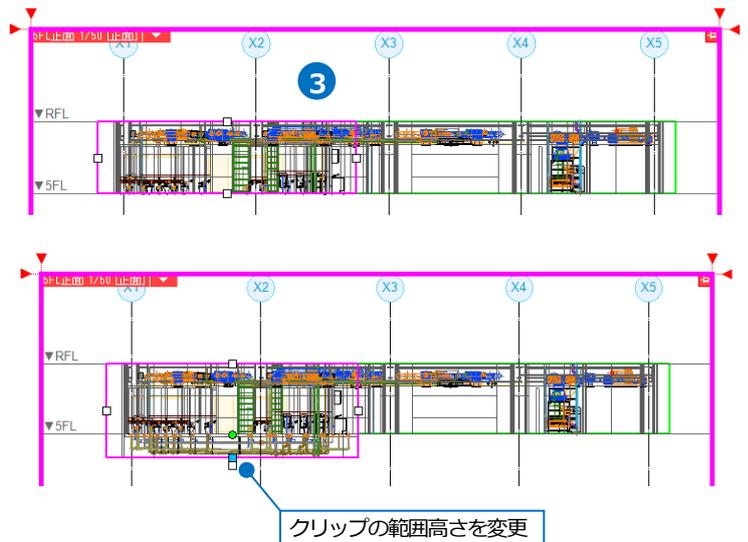


- 2 ラバー上のハンドルをクリックし、分割する位置を指定します。



- 3 指定した位置でクリップが分割されます。

分割されたクリップで、片方のみクリップ範囲を変更することができます。

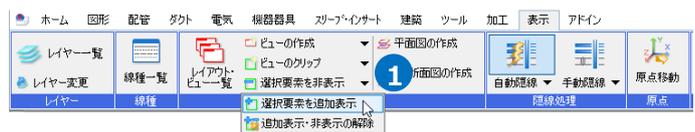


クリップの範囲外の要素を追加表示

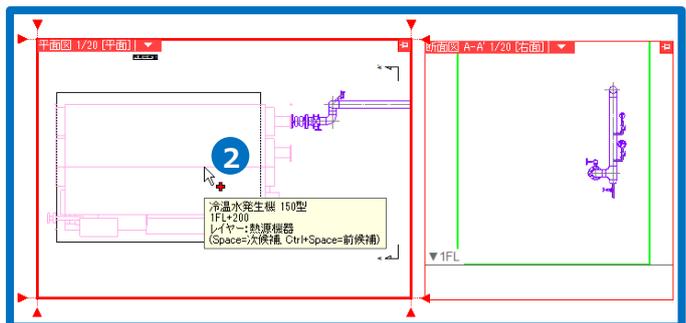
クリップ範囲外の要素を表示します。

リボンから追加表示

- 1 [表示]タブ-[選択要素を非表示]横の[▼]-[選択要素を追加表示]をクリックします。

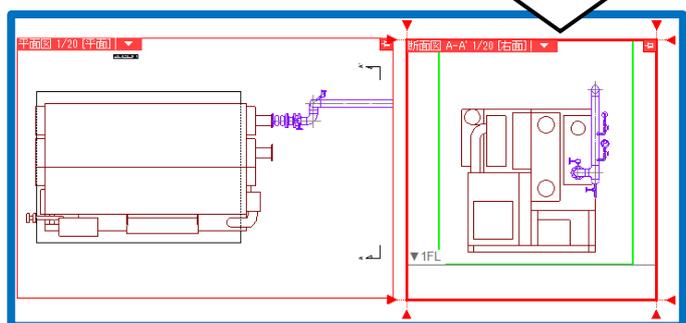
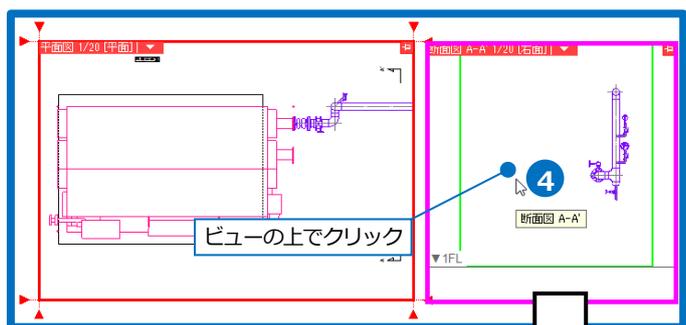


- 2 追加表示する要素を選択します。



- 3 コンテキストメニューから[確定]をクリックします。

- 4 追加表示するビューをクリックします。

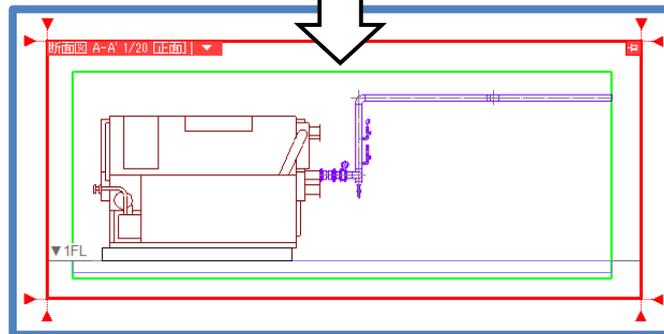
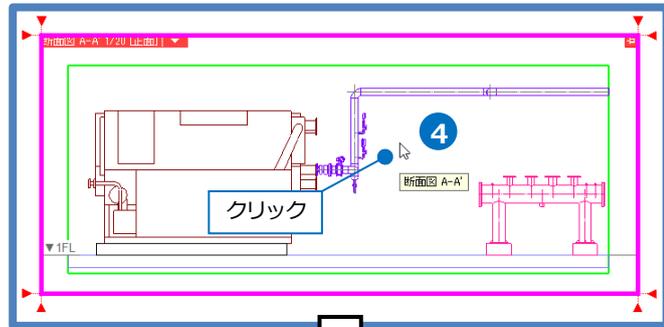
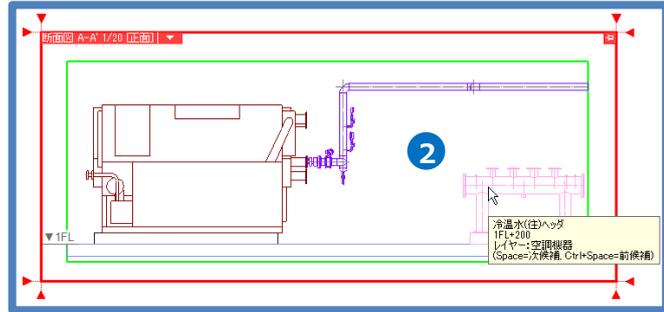
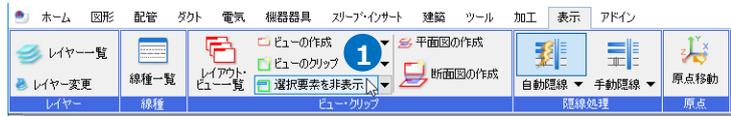


クリップの対象範囲から要素ごとに非表示

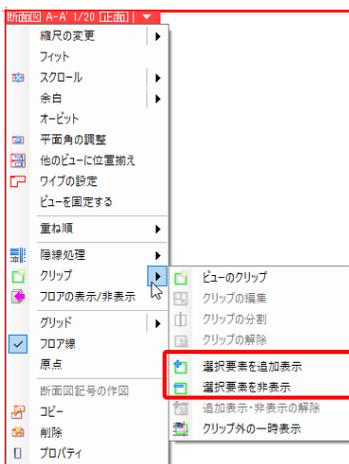
設定したクリップ範囲から指定した要素を非表示にします。

リボンから要素を非表示

- 1 [表示]タブ-[選択要素を非表示]をクリックします。
- 2 非表示にする要素を選択します。
- 3 コンテキストメニューから[確定]をクリックします。
- 4 非表示にするビューをクリックします。



● 補足説明



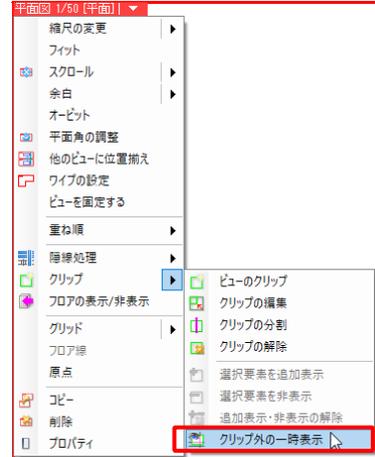
ビューのメニューの[クリップ]-[選択要素を追加表示][選択要素を非表示]でも指定した要素の追加表示、非表示ができます。コマンドは表示、非表示を行うビューのメニューで指定します。

ビューのメニューから[クリップ]-[追加表示・非表示の解除]を選択すると、[選択要素を追加表示]、[選択要素を非表示]を行ったビューの表示を元に戻します。

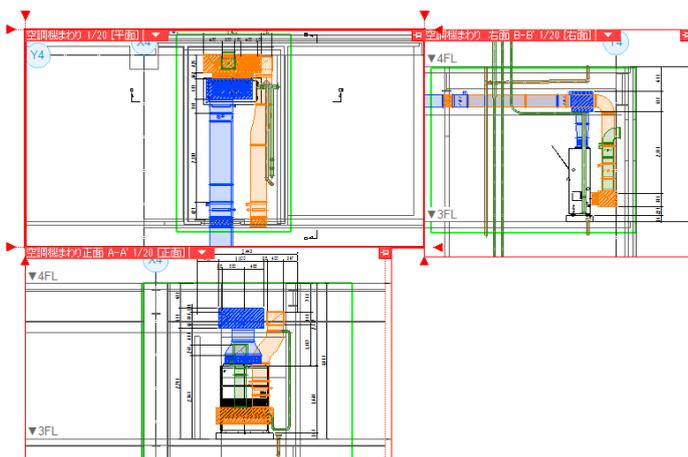
クリップで非表示にした要素の一時表示

クリップの設定範囲外の要素や、[選択要素を非表示]コマンドで非表示にした要素を一時的に仮表示し、選択できるようにします。

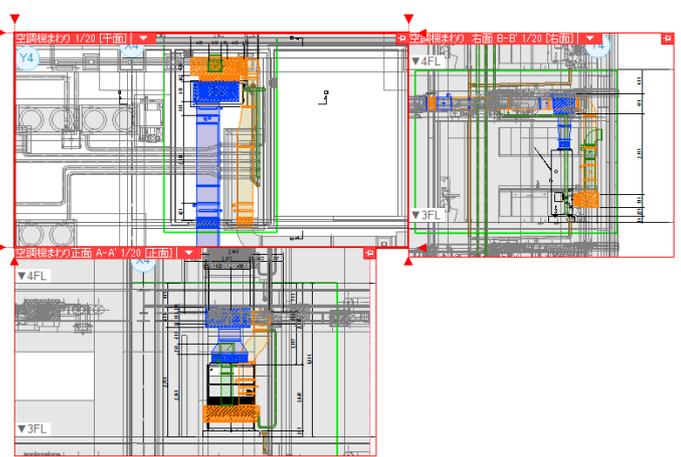
画面右下ステータスバーの[クリップ外の一時表示]をオンにするか、ビューのメニューから[クリップ]-[クリップ外の一時表示]をクリックします。



Memo
[クリップ外の一時表示]をオンにすると、隠線処理が一時的に解除されます。



オフ



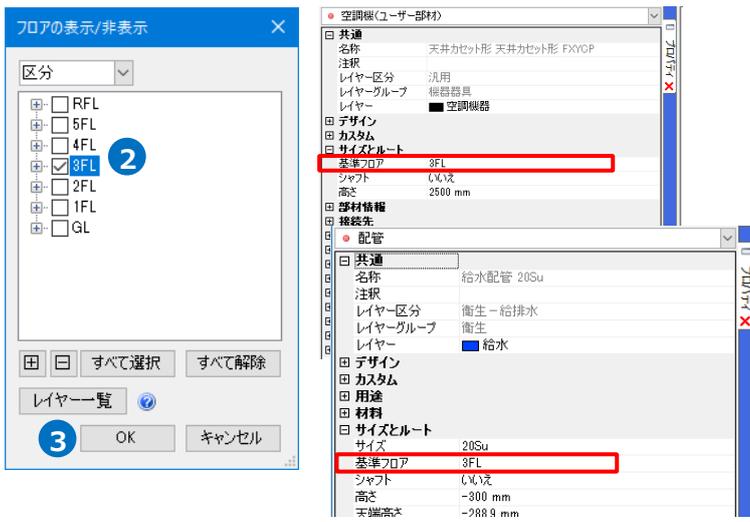
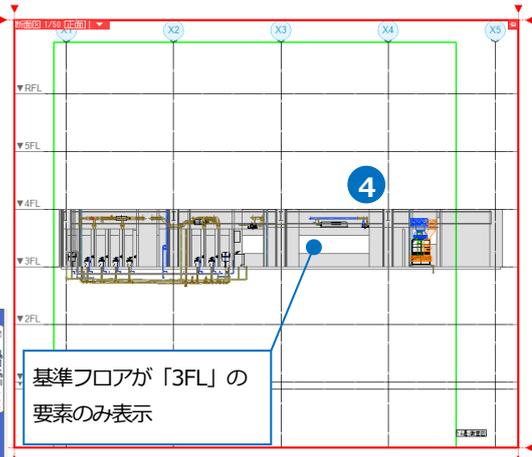
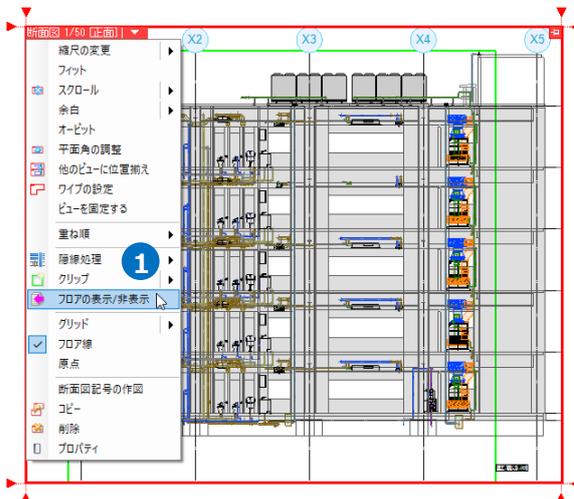
オン

指定したフロアの要素のみ表示する

表示する要素をビューごとに基準フロア単位で指定することができます。基準フロアを持たない2Dデータは制御の対象には含まれません。また、要素の高さが同じであっても、基準フロアが一致しなければ表示されません。

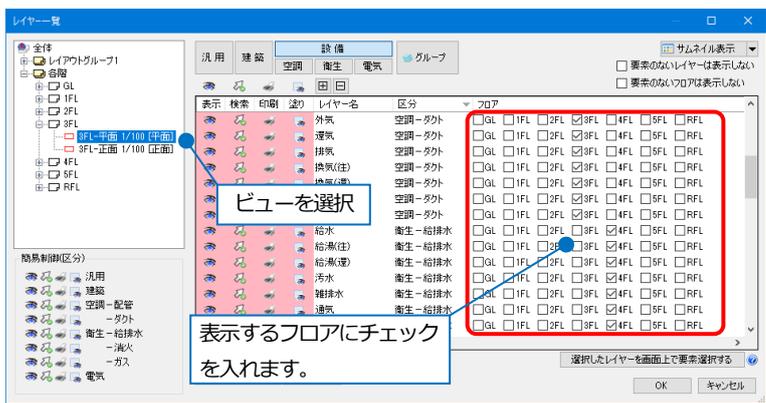
※2Dデータの表示を制御する場合、p.39を参照してください。

- 1 ビューのメニューから[フロアの表示/非表示]を選択します。
- 2 表示する基準フロアにチェックを入れます。
- 3 [OK]をクリックします。
- 4 チェックを入れた基準フロアで作図された要素のみ表示されます。



レイヤーごとに表示するフロアを指定する

見下げ/見上げに合わせて表示する用途の基準フロアが異なる場合、[表示]タブ-[レイヤー一覧]でレイヤーごとに表示するフロアを選択することができます。



2D データの表示を制御する

DXF/DWG、JWW データ、文字、寸法線などの汎用要素の表示をビューごとに制御します。

※ビューの表示方法については、p.4 の「ビュー共通/平面ビュー共通/ビュー専用」を参照してください。

作図する時

線や文字などの 2D 図形を作図する時、リボンの[表示]から

「ビュー共通」「平面ビュー共通」「ビュー専用」を選択します。

「ビュー専用」を選択すると、作図するビューにのみ表示します。



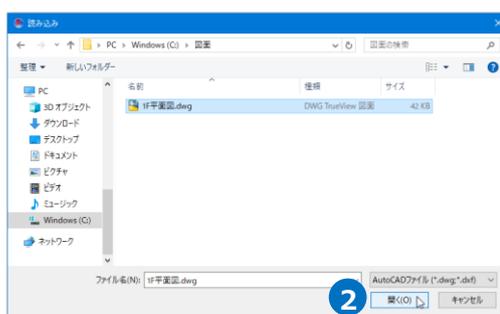
DXF/DWG、JWW データを読み込む時

[ホーム]タブ-[開く]または[DXF/DWG、JWW 読み込み]コマンドでファイルを指定するとダイアログが起動します。ダイアログで、表示するビューを指定します。

- 1 [ホーム]タブ-[読み込み]をクリックし、[DXF/DWG 読み込み]を選択します。

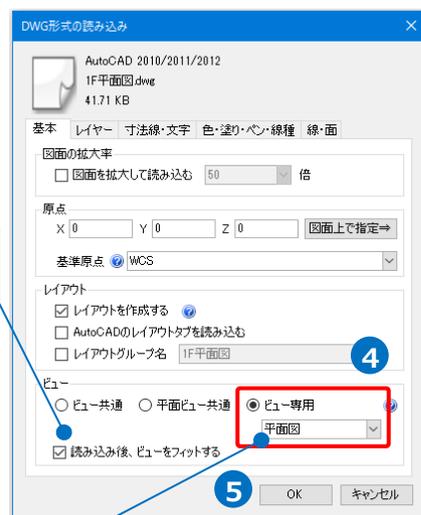


- 2 ファイルを選択し、[開く]をクリックします。



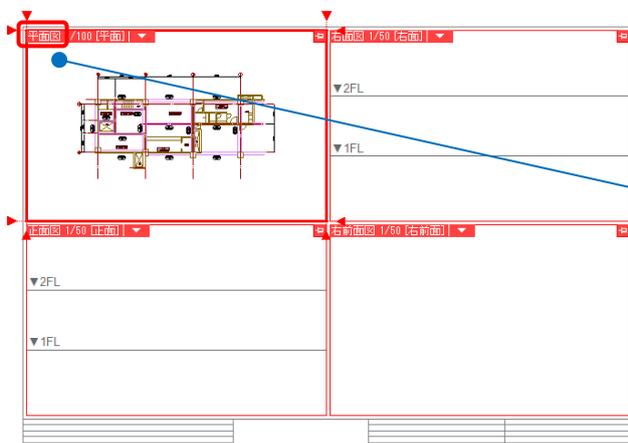
- 3 [DWG 形式の読み込み]ダイアログが表示されます。

- 4 「ビュー専用」を選択します。ドロップダウンリストには、開いている図面のビュー名が表示されます。表示したいビュー名を選択します。



- 5 [OK]をクリックします。
→選択したビューに表示されます。

チェックを入れると、ビューの大きさに合わせて自動で縮尺を補正します。

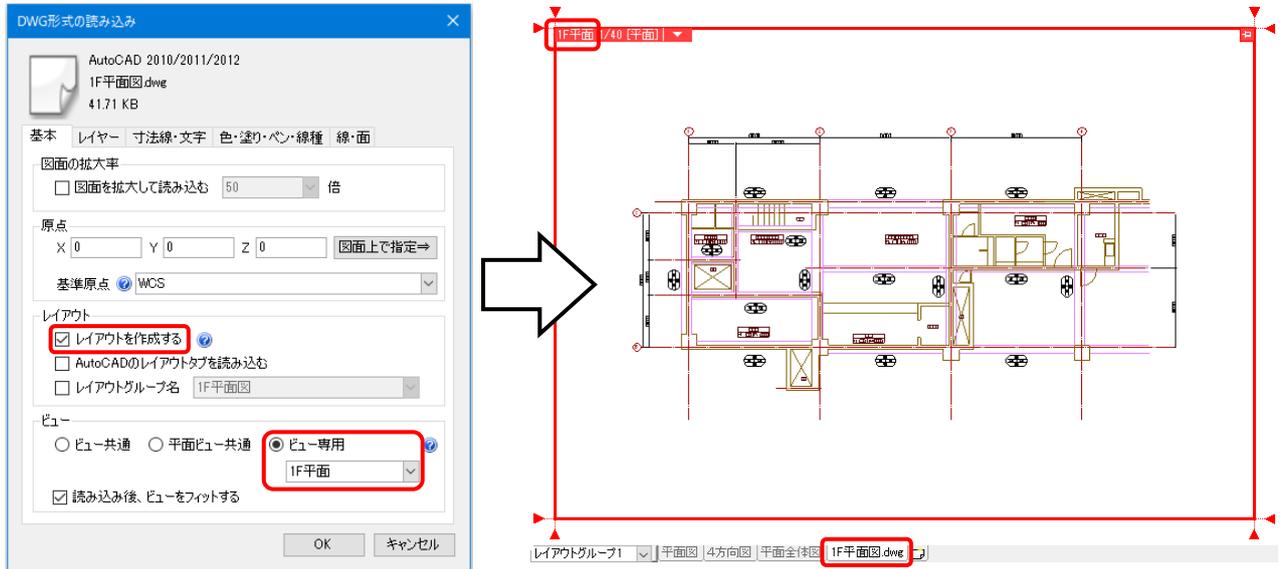


読み込み時に指定したビュー名にのみ表示されます。

- 補足説明

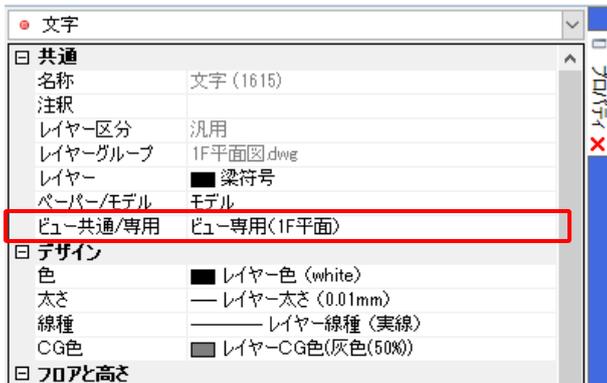
読み込みダイアログでビュー専用を指定し、ドロップダウンにビュー名を入力すると、入力したビュー名の専用要素として読み込まれます。

[レイアウトを作成する]にチェックを入れ、読み込むと、DWG ファイル名のレイアウトが追加されます。このレイアウトに作成されるビューは、ビュー専用で指定したビュー名で作成されます。



プロパティで変更する

作図した要素または、読み込んだ 2D データは要素のプロパティでビューの表示方法や表示するビューを変更することができます。



- 補足説明

2D データにも、基準フロアや高さを設定できます。作図時にリボンで[高さ]にチェックを入れて設定するか、作図後に[プロパティ]から設定します。



ビューを参照する

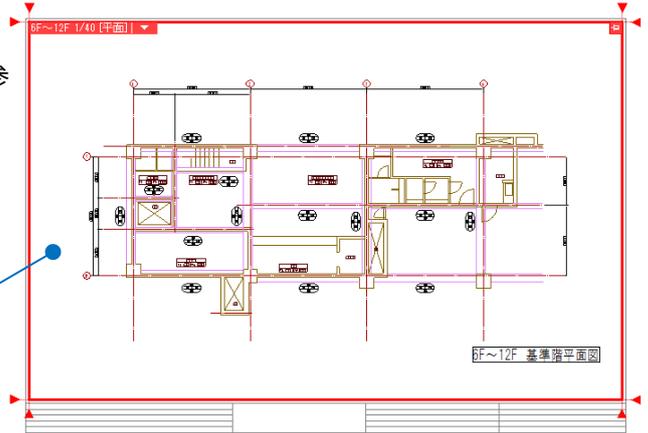
ビュー専用の要素を他のビューでも利用する場合、ビューを参照して表示することができます。

建築の基準階データなど、すべての平面ビューではなく一部のビューで表示させたい場合にビューを指定し、参照します。

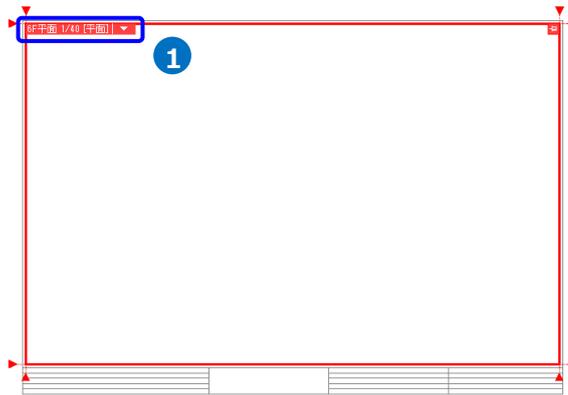
ビュー「6F~12F」の建築図を各平面ビューで参照します。

6F~12Fで使用する建築図
(ビュー専用)

6F~12F 1/40 [平面]



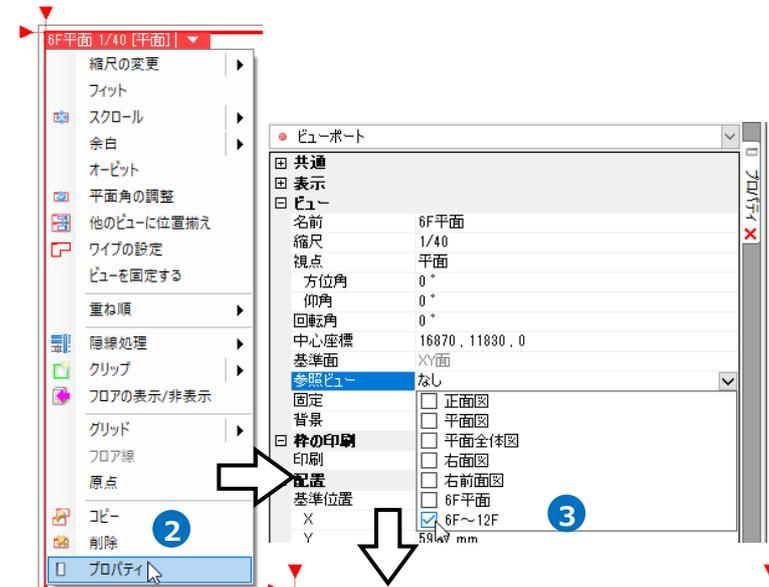
- 1 [表示]タブ-[ビューの作成]コマンドで6F用の平面ビューを用意します。



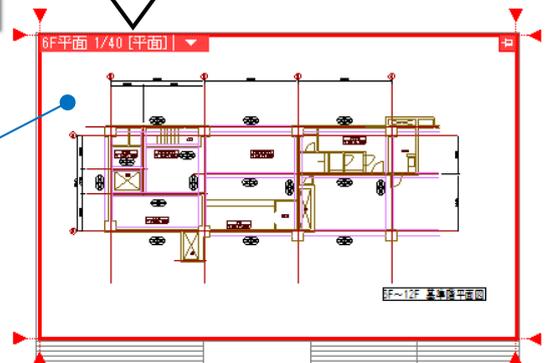
- 2 ビューのメニューから[プロパティ]を選択します。

- 3 [ビュー]-[参照ビュー]をクリックし、建築図を読み込んだビュー名にチェックを入れます。

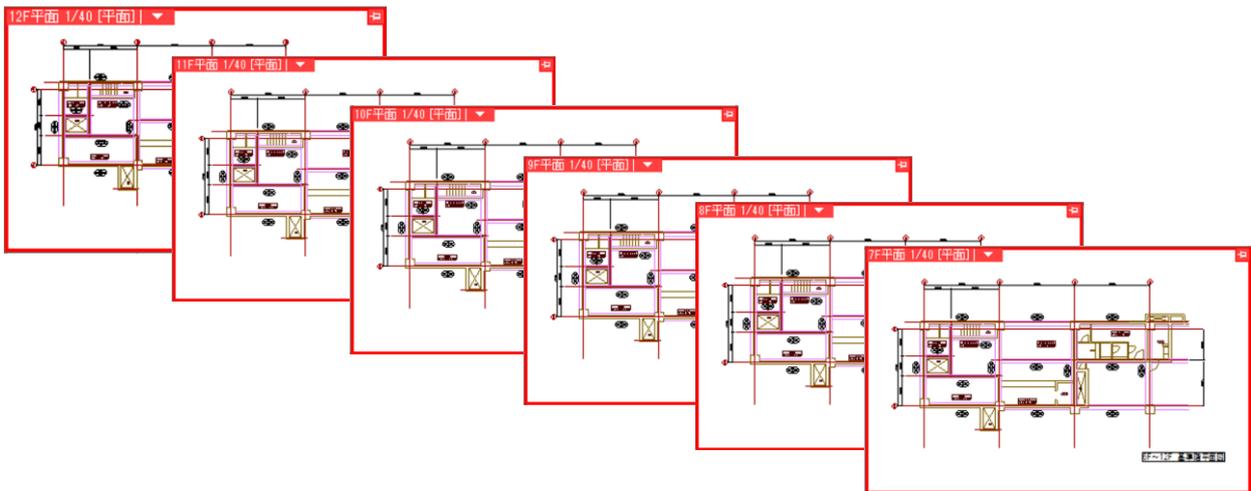
Memo
参照している要素を編集すると、表示している他のビューでも連動します。



ビュー「6F~12F」を参照しています。



4 各平面ビューでも同様にビュー「6F~12F」の建築図を参照します。



● 補足説明

ビュー専用で寸法線や文字などを作図すると、ビュー「6F平面」のビュー専用要素となります。
参照先のビュー「6F~12F」には表示されません。

